IHF・AHF総会の報告

アジア・アフリカ主導型に 来年以降は加盟国増加

日本ハンドボール協会副会長
渡邊　佳英

私はバルセロナ・オリンピック大会直前の7月18日からバルセロナで開かれたアジア・ハンドボール連盟（AHF）及び国際ハンドボール連盟（IHF）の両総会に日本ハンドボール協会副会長として出席しました。ここに、両総会の経緯を簡単にご報告します。

「IHF総会」

■役員選挙

この総会のポイントは、近年になく様変わりしたことである。従来、ヨーロッパ主導型だった総会及び役員選挙がアジア・アフリカ主導型に大きく転換した。つまり、アジア・アフリカが主導権を握って役員選出作業を進めたことで、その顕著なものとして第一副会長にババカル・ファル氏（ダカール）が当選したことである。第二副会長にアルベルト・デ・サンローマン氏（スペイン）、第一副会長にウラジミル・クリフコフ（ソ連）が再出馬したが、多くの支持を得られず敗れ去った。

副会長選挙のほかにも、アジア・アフリカの意志を汲んだ人たちが選ばれ、ヨーロッパ勢の衰退が目立った。それだけを見てもハンドボールの世界は〝ヨーロッパ主導型の時代が終わった〟ことが明白になったといって過言ではない。

■ヨーロッパ・アフリカの動き

東西ドイツの合併、イランのクウェート侵攻、ソ連の解体による独立国の誕生および加盟申請、ユーゴスラビアの内戦、アフリカ諸国、さらに中南米諸国（パナマ、ニカラグァ）の加盟申請など1990年のIHF総会（マデイラ）以降、世界情勢は大きく変動し、IHFはその対応に追われていた。

暫定メンバーとして旧ソ連のラトビア、エストニア、白ロシア、ウクライナ、モルダビア、ゲオルギア、アルメニア、アゼルバイジャン、旧ユーゴのスロベニア、クロアチア、アルバニアが認められた。

さらに、旧ソ連のアジア諸国（キルギス、カザフスタン、タジクスタン、トルクメニスタンなど）、アフリカのギニアビリウ、ブルンディ、ルワンダ、モーリシャスなどの加盟申請も受理し、IHFのメンバーは増大した。こればかりでなく、アジアのマレーシア、ベトナム、ヨーロッパのマルタなどもハンドボールへの関心を持ち始めている。1993年以降、これらの暫定メンバー及び加盟申請国を正式なメンバーとして認めることになれば、IHFの力は他の競技団体（IF）に対して少しも遜色がない強大なものとなろう。南アフリカ連邦の加盟についての最終決定も1994年になる予定。

■女子チームの増加要求

IHFは国際オリンピック委員会（IOC）に対し、1996年のアトランタ・オリンピックの女子参加チームを現在の「8」から「12」に増やすよう要求する意向である。これは男女差別をなくすIHFの基本理念であるが、果たしてIOCが応じるか、どうか。IHFにとっては最大の関心事である。

「AHF総会」

AHFの重要議題である役員人事は専務理事及び事務局長を除いてすべて複数の候補者があり、会長シェイク・アーメド・アル・ファハド・アル・アメド・アル・サバ氏（クウェート）、第一副会長にアジア代表の金宗河氏（韓国）を選出した。

理事選挙では、私が11票（満票は13票）は獲得して理事に選ばれ、責任の重大さを痛感している。

■役員

アジア・ハンドボール連盟新役員

会長　シェイク・アーメド・アル・ファハド・アル・アメド・アル・サバー（クウェート）
第一副会長　金　宗河（韓国）
第二副会長　アーメド・アル・ファルダン（クウェート）
専務理事　シアド・アブール・ハッサン（パキスタン）
事務局長　バデール・アル・ドヤブ（クウェート）
理　事　渡邊　佳英（日本）
アブドル・ワヘド・J・スマイト（カタール）
アブドラ・アブ・ナワール（ヨルダン）
アブドラ・ビン・S・アル・ファルシ（オマーン）
シー・チャン・シュー（中国）
モハメド・A・ハメード（バングラデシュ）

第12回全国クラブ選手権大会

男子は地元・氷見クラブが 女子は殖産銀行クラブが初優勝を飾る

第12回全国クラブ選手権大会は、ハンドボールのメッカ氷見市で開催され、男子は地元・氷見クが、女子は殖産銀行クが初優勝を飾った。

氷見クは第1回大会以来の常連チームであり、過去2位1回、3位2回の実績を誇る。チーム結成以来30年の歴史を持ち、今日まで灯を消すことなく活動を続けて来ただけではなく、さらに全国制覇という偉業まで成し遂げたことは称賛に値する。

殖産銀行クはべにばな国体に向けて結成されたチームで、歴史は浅いが、よく練習を積んでおりハンドボールにふさわしい走跳投の基礎がしっかりしていて当然の優勝といえよう。勿論地元国体での活躍が期待されようが地域のハンドボールの普及発展にも努力してほしい。

さて今大会で特筆すべきチームは、地元である氷見クと射水クであった。氷見クは決勝トーナメントにおいても準々決勝で実業団のBチーム大同クを24－22で降し、さらに準決勝では桜門クを20－19の1点差で降した。

決勝では昨年の覇者小松クを24－22と接戦の末降したパームヒルズク（沖縄）で、優勝候補の筆頭と予想されていた。試合は一進一退の展開となり後半も半ばに入り実力に優る沖縄が4点リードし、試合を決めたかの感があったが、そのリードをはね返し逆転優勝を飾った。

氷見クは平均身長170㎝そこそこで小柄なだけに高い位置での積極的なディフェンスが大切で常に相手に間合いをとらせないのが特徴である。個人的な力量は失礼ながら他チームに比べ明らかに劣っている。ただスピードとチームプレーが不可能を可能にし、小が大を制してしまった。

ここに日本のハンドボールの今後の歩むべき方向性を見たような気がした。

女子では射水クの活躍が目につく。予選リーグで大活躍の大和銀行クを接戦の末降したのが自信となった。

勢いづいた射水クは決勝リーグでジャスコOBのあゆみクもPT合戦を演じ勝利をものにし決勝へと駒を進めた。いよいよ優勝をとげた殖産銀行クとの対戦である。力の差は歴然としていたが、結果的には1点まで頑張り敗れはしたものの立派だった。最後まで無欲で頑張り抜いた試合ぶりは地域のハンドボーラーに夢と希望を与えてくれた。

ところで、この度初めて大会運営に当ったのだが、大会の準備から当日の競技、そして後始末まで一部始終を見ての感想を述べてみたい。

とくに選手の参加意識についてであるが、私は大きく二つに分けられるように思った。一つは学生時代ないしは実業団時代、ハンドボールに青春の情熱を燃やし、卒業後ないしは退団後は、青春の思い出を捨て切れない同士が集って汗を流し、過去の栄光を語るというもの。

もう一つは、同じように卒業あるいは退団後ではあるが、学校等のOBとして後輩の育成のため、さらに情熱を傾けるというもので、その存在は、コーチなどという生やさしいものではなく、身を持ってぶつかることによって後輩を育てていくクラブである。

参加選手の意識が、こういった二つに分けられるほど単純なものではないという反論もあるにはあろうが、敢えて私がこのように述べるのは、次のような結論を導きたかったからである。

いったい日本ハンドボール協会は、この大会に何を期待しているかということである。私ならば先述の後者のグループの存在こそ今後大切にしていきたいのである。そうであればこの大会に対する協会自身の思い入れも違って来ようし、日本のハンドボールの水準も一層飛躍し、世界に通用する力をそなえることにはならないだろうか。

参加を表明しておきながら無断欠席するチームがあった。相手チームや関係者に多大な迷惑をかけることだけではとどまらない問題だと考えなくてはならない。この大会をまだまだ盛大にし、もっともっと充実したものにするためには選手それぞれの自覚が最も大切である。

XX COPA INTERAMNIAに参加して

世界のレフェリーとの交流に満足

全日本実業団連盟審判長
西村興八（神戸製鋼所）

私は、テラモ国際大会はこの20回大会がレフェリーとして2回目の参加になりました。今回は日本チームは参加しなかったが、私は49才でレフェリー資格も最後の年のため、秘書(妻)と共に参加した。

本大会は、テラモ市（イタリアの中部地区）内にハンドボールコートが36ヶ所設置され、参加国は46ヶ国チームは457チーム、全試合数は1419試合、年令別に10～22才までを男、女各々年令別に6カテゴリーに分類し、その内20～22才までがナショナル・ジュニア選手権として大会期間（7月2日～11日）でチャンピオンを決める。

7月1日からのサマー・バケーションのスタートにより、ヨーロッパの各国よりバスで各クラブチームがこのテラモ市に集い、テント、公民館、学校等に仮ベットを設置し、食事は近所の主婦、学生のボランティアでまかなわれる。

試合の時間帯は朝8時～12時、夕方17時～23時、昼は暑すぎるため昼寝休息。

オープニングパレードには、各国の民族衣裳をまとい、この歴史あるテラモのメインストリートを行進する。この時ばかりはテラモ市が一年中で一番国際的で盛り上がる時だ。

私も浴衣とゲタで秘書と共に参加した。しかしこの時、我が秘書は浴衣がステキだったのか、ミステラモに選ばれたのには驚いた。しかし、クィーンには落選、クィーンにはデンマーク生れのセクシーな足の持ち主が選出された（当然だ）。

さて、試合の方はナショナル・ジュニアの女子は、韓国が地元イタリアに圧勝。一方男子は、韓国がギリシャに第1延長戦23－24で惜敗。韓国女子は、今や風格が感じられ、体力、能力、精神力とも東欧勢をしのぐパワーには敬服した。今やハンドボール界には韓国ハンドボールは不可欠となった。

さて、私は出発前にはレフェリー技術を東京都民大会で世界の後藤登（東京都審判長・バルセロナ・オリンピック参加）さんより確かなアドバイスを得たおかげと、大会初日よりイタリアのトップレフェリー「Mr. PRATANO」とのペアーにも恵まれ、7日間の大会に自信に満ちたレフェリングをできたことにとても満足した。

このイタリアの伊達男は、とかく警告、退場はバンバンとり、私は圧倒されてばかりいたが、判定ごとに顔を合わせ、お互いにサインで確認、合意して進行できたことは喜びであった。

一日6～7試合のノルマがあり日頃、節酒し、節制したことの効果により、最後には男、女のセミファイナルをレフェリングできたことに自分ながら誇りがもてた。

大会前はヴェニスのサンマルコ広場近くのホテルに2泊、大会後は北イタリアのルガノ、スイスのグリーンデンワールドへと旅をした。

世界のレフェリー、特に今回は新たにアルゼンチン、ペルー、パナマ等127人が共に8日間、同じホテルに泊り、朝、昼、夕と同じめしを食ったこと。そして、驚いたことにレフェリー中、日本人の私だけが夫婦で参加し、世界の仲間よりつつましい評価を受けたことで、味いのある趣きの旅も経験した。

ジュニアの子供たちの笑顔が炎天下でのレフェリーの疲れをリリーフさせてくれました。

「アリベデルティ」
「チャオ」「チャオ」

第17回日本リーグ〈前期〉

男子は湧永、日新が並走 女子は北国が全勝で折り返す

第17回日本リーグ前期は、6月6日から7月12日まで熱戦を展開し、男子1部リーグは湧永製薬、日新製鋼がともに6勝1敗で並び、女子1部リーグは北国銀行が5戦全勝で折り返した。後期リーグは、来年1月15日に再開される。

男子1部

第1週第1日（6月6日）

◈鈴鹿市立体育館

大同特殊鋼 30〔16－14、14－13〕27 トヨタ自動車

〔戦評〕トヨタが立ち上がりディフェンス（プレス）から香井の速攻、山ノ内のミドル、三輪の速攻等で3点を連取、好スタートを切る。一方大同は、トヨタの変形プレス1－5ディフェンスをやや攻めあぐみ、20分過ぎまでリードを許す。やっと相手ディフェンスに慣れ、26分に同点とし、前半終了間際の末岡の速攻で2点差に広げて折り返す。

後半、大同・末岡の活躍で一方的になるかとみえたが、ディフェンスが荒くなり、退場者が3人ほど出る間にトヨタ・山ノ内、三輪のサイド、速攻、ロングで追い、20分過ぎに3点差に詰め寄るが、大同はGK秋吉、高村の活躍で逃げ切った。

〔自動車〕	得		得	〔大同〕
山本	0	GK	0	秋吉
富森	0		0	林
香井	1	FP	0	酒匂
川田	3		3	内藤
野々	3		3	高村
光田	0		1	朝生
田村	4		0	植木
三輪	7		8	盧
山ノ内	8		0	藤井
杉元	1		12	末岡
田中	0		2	佐藤
柳	0		1	宇多村
27	(1)	PT	(4)	30

〔審・夏目・松ヶ谷〕

本田技研 29〔15－9、14－11〕20 三陽商会

〔戦評〕最初から激しい速攻の応酬となり、10分頃まで互角の戦い。15分過ぎより本田のディフェンスが良くなり、平松の速攻や丹羽の活躍で中盤じわじわと本田ペースとなるが、他方、三陽はこの間22分過ぎまで3点を加点したにとどまる。本田は次第に攻撃にリズムが出てきて終盤多彩な攻撃で突き放し、6点差で前半を終了。

後半に入っても本田ペースは変らず、関根の多様な攻撃とベテランの投入でディフェンスを固めた本田がリードを広げる。三陽も田中のプレーからの展開で加点するが及ばず、攻守にわたって本田の技術、スピードが上回ったゲームであった。

〔三陽〕	得		得	〔本田〕
宇田川	0	GK	0	高木
高橋	0		0	橋本
浜川	0	FP	4	弥吉
飯嶋	4		6	丹羽
小河原	2		1	藤井
大坪	0		1	立木
渡辺	1		1	内藤
佐藤	1		3	梅基
浜田	2		0	田口
田中	8		5	平松
近藤	0		3	山村
大村	2		5	関根
20	(1)	PT	(1)	29

〔審・日比・川合〕

第1週第2日（6月7日）

◈国分市総合体育館

大崎電気 28〔13－13、15－13〕26 湧永製薬

〔戦評〕大崎・魚住のロングなどで7分までに5－2とリードする。その後一進一退の攻防が続いたが、湧永が酒巻の投入でディフェンスを固め、21分に堀田のPTで同点とし、前半を13－13で終える。

後半8分、玉村で湧永が逆転に成功するが、18分に大崎・土屋の連続ゲットで再び22－20とリード。その後、大崎・魚住、湧永の酒巻が好シュートを放つが、大崎GK工藤の再三の好捕に遂に湧永が力尽きた。

〔湧永〕	得		得	〔大崎〕
多田	0	GK	0	工藤
河野	0		0	渡辺
酒巻	3	FP	1	大橋
河原	3		2	武田
玉村	6		4	首藤
堀田	1		0	小野
中山	2		13	魚住
長沢	3		4	甲斐
荷川取	1		0	菅田
鎌塚	4		2	宮下
高田	0		0	柏崎
田中	3		2	土屋
26	(1)	PT	(2)	28

〔審・岩本・板倉〕

日新製鋼 27〔14－8、13－16〕24 中村荷役運輸

〔戦評〕日新が出だしサイドシュート・速攻、3本のPTで12分過ぎまでに9－1と大きくリード。これに対し中村は、呉の速攻、八尾のサイドなどで追いかける。19分から25分までどちらも決め手を欠き無得点で、前半は14－8と日新が6点をリードして終了。

後半は両チームとも動きが良くなり、点を取り合うゲームとなった。中村は呉、田口のロング、八尾のサイドなどで追い上げ、28分には元島、西村の速攻で25－24と1点差にまで迫った。しかし、残り30秒で日新は木村のポスト、武田の速攻で中村をふり切り、27－24で逃げ切った。

〔荷役〕	得		得	〔日新〕
石井	0	GK	0	篠原
井上	0		0	宇田川
田口	2	FP	3	堀田
西村	2		2	武田
朴	3		1	西山
雨宮	5		3	甲斐
八尾	3		0	林
元島	1		0	木村
高木	4		4	池田
呉	4		7	源内
田中	0		3	坂口
明石	0		4	野中
24	(0)	PT	(5)	27

〔審・松村・渡邊〕

第2週第1日（6月14日）

◈緑ヶ丘スポーツ公園体育館

大崎電気 23〔9－9、14－11〕20 中村荷役運輸

〔戦評〕中村が終始リードした展開だったが、26分過ぎ、大崎・首藤の得点で9－8と逆転、しかし中村もすぐに追いついて9－9の同点で前半を終了。

後半に入っても一進一退のゲームが続いたが、10分過ぎ、中村・

〔荷役〕	得		得	〔大崎〕
石井	0	GK	0	工藤
井上	0		0	渡辺
田口	3	FP	4	大橋
西村	0		0	珍田
朴	2		1	武田
雨宮	3		5	首藤
八尾	5		0	小野
元島	0		2	魚住
高木	0		3	甲斐
呉	7		1	菅田
田中	0		4	宮下
明石	0		3	土屋
20	(2)	PT	(2)	23

〔審・後藤・島田〕

呉の連続ゴールで中村がリード。しかし、シュートミスを連発する中村に対し、大崎は21分過ぎからの首藤の3連続得点などで中村を突き放し、23－20で逃げ切った。

◉富山市体育館

本田技研 29（15－12、14－10）**22 トヨタ自動車**

〔戦評〕前半、本田技研はポストを絡めたコンビネーションから、さまざまなポジションからムラなく得点。これに対し、トヨタは三輪を中心としたパワフルなシュートで対抗し、一進一退のスピーディな追いつ追われつの展開。わずかに速攻からの得点の差で本田が15－12と3点をリード。

後半、ディフェンスのチェックが厳しくなった本田が、トヨタのシュートをよく阻止し、GK橋本の好パスからの速攻で着実に得点、29－22で勝利を収めた。

得	〔本田〕		〔自動車〕	得
0	高木	GK	山本	0
0	橋本	GK	宮森	0
8	弥吉	FP	香井	2
2	丹羽	FP	川田	1
2	藤井	FP	野々	3
2	梅基	FP	光田	0
5	平松	FP	田村	6
9	山村	FP	三輪	6
0	中里	FP	山ノ内	1
0	関根	FP	杉元	3
0	木下	FP	田中	0
1	田中	FP	柳	0
29	(3)	PT	(2)	22

〔審・阿部・浜野〕

◉東海市民体育館

大同特殊鋼 35（16－16、19－7）**23 三陽商会**

〔戦評〕立ち上がり高さに勝る大同のディフェンスがリズムをつかみ切れない三陽の攻撃をGK林の好守と合わせて守り切り、10分までに6－1とリードした。その後は両者スピードのある攻防を展開、三陽が45度プレーヤー飯島の活躍で次第にリズムをつかんだ三陽が徐々に得点差をつめ、22分にはとうとう同点に追いつき、16－16で前半を終了した。

後半は、前半にもまして激しい攻防を展開。やや総合力に勝る大同が確実な攻撃とサイドプレーヤー末岡の速攻で徐々にリードを広げた。三陽も最後まで必死に食い下がりを見せたが、ディフェンスにまとまりの出てきた大同を切り崩せずに終った。

得	〔大同〕		〔三陽〕	得
0	秋吉	GK	藤原	0
0	林	GK	高橋	0
3	内藤	FP	浜川	0
5	高村	FP	飯嶋	7
2	朝生	FP	小河原	1
0	植木	FP	大坪	0
4	盧	FP	渡辺	5
5	藤井	FP	佐藤	2
9	末岡	FP	浜田	4
5	佐藤	FP	田中	4
0	阿萬	FP	湯井	0
2	宇多村	FP	大村	0
35	(3)	PT	(2)	23

〔審・川島・森〕

◉下関市立体育館

湧永製薬 31（18－7、13－17）**24 日新製鋼**

〔戦評〕日新は西山をスタメンからはずして臨むが、湧永・堀田の多彩なサイドシュート、鎌塚のロングシュートやポストプレーなどが確実に決まり、着実に得点を重ねていった。一方、日新は日頃になく元気がなく、前半15分、西山が登場するまでわずか3点の得点であり、結局、前半18－7という湧永の大量リードで折り返した。

後半に入り、いくらか元気を取り戻した日新は15分までに23－17と6点差まで追い上げたものの前半のリードが大きかった湧永が勝利を収めた。

得	〔湧永〕		〔日新〕	得
0	多田	GK	篠原	0
0	河野	GK	宇田川	0
3	酒巻	FP	堀田	4
3	河原	FP	武田	2
4	玉村	FP	西山	4
4	堀田	FP	甲斐	3
0	新井	FP	林	4
3	中山	FP	木村	0
5	長沢	FP	池田	0
0	荷川取	FP	源内	4
7	鎌塚	FP	坂口	2
2	田中	FP	野中	1
31	(4)	PT	(5)	24

〔審・古冨・赤地〕

第3週第1日(6月20日)

◉春日井市総合体育館

大同特殊鋼 23（10－10、13－13）**23 大崎電気**

〔戦評〕開始早々、大崎は全員がよく動き、速い詰めで大同の攻撃を食い止めるとともに、オフェンスでは首藤、魚住を中心に得点しペースに乗る。一方の大同も盧のロング、内藤のポストプレーが決まりだし、前半を10－10の同点で折り返す。

後半に入り、攻守のバランスが良くなった大同は、試合の主導権を握り、常にリードを保つ。大崎も残り2分に1点差まで追いすがり、20秒には宮下が執念のシュート、これが見事に決まりついに同点。そのままタイムアップの笛が吹かれた。

得	〔大同〕		〔大崎〕	得
0	秋吉	GK	工藤	0
0	林	GK	渡辺	0
2	内藤	FP	大橋	2
3	高村	FP	珍田	0
1	朝生	FP	武田	1
0	植木	FP	首藤	6
7	盧	FP	魚住	4
1	藤井	FP	甲斐	3
5	末岡	FP	菅田	1
4	佐藤	FP	安下	3
0	阿比留	FP	山内	0
0	宇多村	FP	土屋	3
23	(0)	PT	(5)	23

〔審・小山・佐路〕

第3週第2日(6月21日)

◉豊田市体育館

湧永製薬 30（14－9、16－15）**24 トヨタ自動車**

〔戦評〕立ち上がり、湧永はトヨタの攻撃を固い守備で守り、長沢、河原らの連続速攻などで7－1までリードを広げた。その後、両チームともミスが目立ち、スローペースの試合となるが、トヨタ・三輪の小気味よいミドルで9－6まで追い上げ、せり合いの様相を見せてきた。その後一進一退が続き、前半は14－9と湧永の5点リードで終了した。

後半、4分過ぎから湧永が堀田の速攻などの4連取で9点差となったところで一方的なゲームになるかと思われたが、トヨタGK富森のすばらしい好守でペースを引

き戻し、三輪のミドル、山ノ内のサイド、川田のポストなどで追撃、残り2分でトヨタが3点差と追い上げ、さらに速攻で決まれば2点差となるところを湧永のGK河野の体をはったキーピングで守り、トヨタの追撃をシャットアウト。そのまま湧永が逃げ切った。

得	〔湧永〕		〔自動車〕	得
0	多田	GK	山本	0
0	河野		富森	0
2	酒巻	FP	香井	2
3	河原		川田	4
4	玉村		野々	0
5	堀田		光田	1
1	新井		田村	1
1	中山	〔審・川島・森〕	三輪	10
9	長沢		山ノ内	2
3	鎌塚		杉元	4
2	田中		田中	0
0	杉山		柳	0
30	(6)	PT	(2)	24

◆飛騨体育館

日新製鋼 28 〔14—11 / 14—13〕 24 大同特殊鋼

〔戦評〕前半立ち上がり、大同の盧の速攻、朝生のサイドで2点先取すれば、日新は坂口のロングシュート、源内のサイドシュートで応戦、その後大同・盧の高い打点のロングシュートが決まり、3点差まで広がるが、日新・西山のミドル、堀田のポストシュートが決まり15分に6—6の同点、さらに林が2本ミドルシュートを連続して決めるなど波に乗り、13—8とする。大同も反撃、14—11と日新の3点リードで前半を終了。

後半、日新は甲斐、堀田、西山が立て続けに決め、10分には19—11と点差を広げた。その後、大同も高村の活躍などで残り10分に2点差まで詰め寄るが、その後一進一退の展開となり、日新が28—24で逃げ切った。

得	〔日新〕		〔大同〕	得
0	篠原	GK	秋吉	0
0	宇田川		林	0
4	堀田	FP	内藤	0
1	武田		高村	4
7	西山		朝生	1
5	甲斐		植木	1
4	林		盧	5
1	木村	〔審・岩本・浅野〕	藤井	7
0	池田		末岡	3
3	源内		佐藤	3
2	坂口		阿萬	0
1	野中		宇多村	0
28	(4)	PT	(1)	24

◆神戸市立中央体育館

本田技研 23 〔12—11 / 11—10〕 21 中村荷役運輸

〔戦評〕両チームの力の差はあまりなく、ディフェンスの荒さが目立った。特にシュートの形になりかける時の荒い反則が目立ち、シュートチャンスが半減した。15分過ぎから20分の頃に本田のペースになりかけたが、中村・呉を中心としたオフェンスで追いつ追われつの展開が続き、1点差で折り返した。

後半、本田のスローオフで始まり、立ち上がりの5分間はパスミス、シュートミスがあり、両チームとも無得点で経過。その後は互いにチャンスを生かし、中盤までは16—16の同点で進んできたが、15分から20分の5分間にオフェンス専門の本田のベテラン立木のシュートが3本連続して決まり、本田のペースとなってそのまま最後は2点差で逃げ切った。

得	〔本田〕		〔荷役〕	得
0	高木	GK	石井	0
0	橋本		井上	0
3	弥吉	FP	田口	7
4	丹羽		西村	0
2	藤井		朴	0
3	立木		雨宮	3
1	内藤		八尾	1
0	梅基	〔審・吉田・家永〕	元島	2
0	田口		高木	1
3	平松		呉	7
7	山村		田中	0
0	関根		明石	0
23	(3)	PT	(2)	21

第4週第1日(6月27日)

◆岩井総合体育館

大崎電気 29 〔15—13 / 14—15〕 28 三陽商会

〔戦評〕大崎はエース魚住を中心にポイントを確実にあげ、三陽も総合力を生かし大崎に食い下がる。前半残り11分で大崎・大橋が退場するが、大勢に影響なく、すばらしいシーソーゲームを展開する。前半はチャンスを確実にものにした大崎が2点をリードして終る。

得	〔大崎〕		〔三陽〕	得
0	工藤	GK	宇田川	0
0	渡辺		高橋	0
1	大橋	FP	飯嶋	5
0	珍田		小河原	7
6	武田		大坪	0
5	首藤		渡辺	5
8	魚住		佐藤	0
1	甲斐	〔審・仲田・植村〕	浜田	3
2	菅田		田中	7
1	宮下		近藤	0
0	柏崎		湯井	0
5	土屋		大村	1
29	(2)	PT	(2)	28

後半6分に三陽・渡辺のシュートで同点とするが、すかさず大崎・武田のシュートで突き放す。中盤・大崎のパスカットからの速攻が連続して決まり、食い下がる三陽を突き放しにかかるが、三陽もよく粘り必死に追い上げたが、一歩及ばなかった。

第4週第2日(6月28日)

◆岡山市総合文化体育館

湧永製薬 31 〔16—7 / 15—11〕 18 中村荷役運輸

〔戦評〕前半立ち上がり1分20秒に中村荷役の呉がミドルで先行するが、湧永はすぐさま中山のロングで同点とし、堀田、長沢、酒巻らの連続速攻などで6点を連取する。中村もシュートチャンスはあるものの湧永のGK河野のすばらしいキーピングに阻まれなかなか得点できない。その後も湧永は酒巻のフェイントからのカットインなどで着実に加点、中村は呉のミドル、速攻で点を返すが、前半は16—7と湧永が大きくリードした。

得	〔湧永〕		〔荷役〕	得
0	多田	GK	石井	0
0	河野		井上	0
6	酒巻	FP	田口	2
4	河原		西村	1
1	玉村		朴	2
3	堀田		雨宮	1
2	新井		八尾	1
5	中山	〔審・酒井・国府〕	元島	0
6	長沢		高木	0
2	荷川取		呉	9
1	松本		田中	0
1	田中		明石	2
31	(4)	PT	(1)	18

後半に入っても、湧永は中山のロング、酒巻の速攻などで着々と加点、一方の中村はPTを2度も失敗するなど点差は開くばかりだった。中盤以降、中村も朴、雨宮、田口などのカットインで反撃したが及ばなかった。

本田技研 20 〔10—10 / 10—9〕 19 大同特殊鋼

〔戦評〕前半、両チームとも気迫あふれる攻防を展開する。4分、本田・梅基のシュートで先制するが、大同は末岡で取り返す。両チームGKの好守もあり、追いつ追われつの好ゲームとなった。本田は山村のPT、丹羽のミドル、ステップ、弥吉のステップなどで常に先手を取るが、大同は盧のミドル、末岡の3連打などで追いかけ、前半は10—10の互角であった。

後半、本田は内藤の速攻、弥吉のサイドなどで18分には16—14と2点をリード。

大同も藤井、盧のシュートで懸命の粘りを見せたが20—19と僅かに一歩及ばなかった。

得	〔本田〕		〔大同〕	得
0	高木	GK	秋吉	0
0	橋本		林	0
4	弥吉	FP	内藤	1
3	丹羽		高村	1
1	藤井		朝生	1
0	立木		植木	0
3	内藤		盧	4
1	梅基	〔審・萬場・里〕	藤井	2
0	田口		末岡	9
2	平松		佐藤	1
6	山村		阿萬	0
0	関根		宇多村	0
20	(5)	PT	(3)	19

◈呉市体育館

日新製鋼 40（21－11, 19－11）**22 トヨタ自動車**

〔戦評〕前半開始早々から日新・武田（通算250得点達成）らのテンポの良い攻めでペースをつかみ、着実に得点を積み重ねた。また、途中出場した日新・西山は通算550得点を達成した。一方トヨタは、攻守のバランスがとれずパスミスやシュートを宇田川に軽くキーピングされるなど、ペースがつかめないままの試合であった。

後半も日新のペースで進められ、17分過ぎからのディフェンスでの反則から退場者が4名出るなどゆるみが出たが、全般的には余裕をもっての勝利であった。

得	〔日新〕		〔自動車〕	得
0	篠原	GK	山本	0
0	宇田川	GK	富森	0
3	堀田	FP	香井	5
5	武田	FP	川田	1
4	西山	FP	野々	0
4	甲斐	FP	光田	0
4	林	FP	田村	1
5	木村	FP	三輪	10
3	池田	FP	山ノ内	0
3	源内	FP	杉元	1
6	坂口	FP	大塚	3
3	野中	FP	田中	1
40	(2)	PT	(5)	22

〔審・武智 松原〕

第5週第1日（7月1日）

◈東京体育館

湧永製薬 27（13－13, 14－10）**23 三陽商会**

〔戦評〕前半立ち上がり、4分過ぎになってようやく湧永・酒巻が先制、その後互いに一進一退の展開が続く。20分過ぎに湧永が酒巻、河原で4連取して11－8と3点をリードするが、前半残り5分を切って三陽も反撃、13－13の同点で前半を折り返す。

後半は、三陽が飯島のシュートで先手をとる。その後10分過ぎまで再び一進一退が続いたが、そこから湧永が5点を連取、22－18として一気に優位に立った。終盤、三陽も追い上げを見せたが及ばなかった。

得	〔湧永〕		〔三陽〕	得
0	多田	GK	宇田川	0
0	河野	GK	高橋	0
8	酒巻	FP	濱川	0
5	河原	FP	飯嶋	7
3	玉村	FP	小河原	3
3	堀田	FP	大坪	0
0	新井	FP	渡辺	5
4	中山	FP	濱田	2
2	長沢	FP	田中	5
0	荷川取	FP	近藤	0
0	松本	FP	湯井	0
2	田中	FP	大村	1
27	(2)	PT	(1)	23

〔審・後藤 島田〕

大崎電気 48（26－9, 22－15）**24 トヨタ自動車**

〔戦評〕開始40秒、大崎・土屋が先制する。その30秒後にトヨタ・香井が返して一進一退の展開となる。しかし17分過ぎから大崎が実に13点を連取、24－9と大きくリードを広げて一気に勝負を決した。

後半に入って、トヨタも三輪、川田らのがんばりで中盤過ぎまで互角に展開したが、再び息切れ、大崎に大量得点を奪われ大敗した。

得	〔大崎〕		〔自動車〕	得
0	工藤	GK	山本	0
0	渡辺	GK	富森	0
5	大橋	FP	香井	4
1	珍田	FP	川田	4
4	武田	FP	光田	0
7	首藤	FP	田村	2
9	魚住	FP	三輪	10
4	甲斐	FP	山ノ内	2
3	菅田	FP	杉元	0
5	宮下	FP	大塚	2
2	柏崎	FP	田中	0
8	土屋	FP	中山	0
48	(2)	PT	(0)	24

〔審・田村 斉藤〕

第5週第2日（7月2日）

◈東京体育館

日新製鋼 28（13－14, 15－7）**21 本田技研**

〔戦評〕サイド、ロング、ポストとエリアを有効に使う本田の攻めがゲームの序盤を制し、先行したが、日新GKのPT阻止を機に日新のディフェンスのフォローが厚くなり、速攻を続け一気に逆転した。しかし、本田もベテラン立木の要所でのシュートが2本決まり再逆転して前半を終了した。

日新は後半、オフェンスのポストに木村を起用したことが当たり、再三のチャンスを得点に結びつけた。GKも前半シュートをよく決めた本田・山村のPT、サイドシュートを止め、一気に流れは日新に傾き、28－21で快勝した。

得	〔日新〕		〔本田〕	得
0	篠原	GK	高木	0
0	宇田川	GK	橋本	0
3	堀田	FP	弥吉	1
3	武田	FP	丹羽	1
3	西山	FP	藤井	3
3	甲斐	FP	立木	2
4	林	FP	内藤	2
3	木村	FP	梅基	3
2	池田	FP	田口	0
3	源内	FP	平松	3
3	坂口	FP	山村	6
1	野中	FP	関根	0
28	(0)	PT	(2)	21

〔審・江成 島田〕

中村荷役運輸 30（15－13, 15－12）**25 三陽商会**

〔戦評〕呉、朴のロング、ポストで好調なスタートを切った中村は各プレーヤーの持ち味を生かした攻撃で加点し、16分には12－5まで差を広げた。しかし、三陽も田中が速攻で連取し、23分以降5点連続得点などを含め2点差まで詰め寄った。

後半に入り、三陽は小河原のポストプレー、田中、飯島らのミドルで追い上げ、中村・雨宮の失格により有利になると思われたが、中村GK井上のファインプレー、呉の要所での得点で中村が三陽をふり切った。

得	〔荷役〕		〔三陽〕	得
0	石井	GK	宇田川	0
0	井上	GK	高橋	0
4	田口	FP	浜川	3
2	西村	FP	飯嶋	4
3	朴	FP	小河原	2
3	雨宮	FP	大坪	0
7	八尾	FP	渡辺	6
0	元島	FP	佐藤	1
1	高木	FP	浜田	0
10	呉	FP	田中	8
0	田中	FP	湯井	0
0	明石	FP	大村	1
30	(3)	PT	(4)	25

〔審・小林 土屋〕

第5週第4日（7月5日）

◈東根市民体育館

日新製鋼 28（14－15, 14－10）**25 大崎電気**

〔戦評〕前半開始より日新・西山

のロングなどでゲームの流れが日新にあった。しかし、宮下のロングやポストプレーを使った攻撃で追いついた大崎は、日新・西山をマークし、攻撃のリズムを取り戻して15−14と1点をリードして前半を終了した。

後半、大崎は日新のミスから速攻などでペースをつかみ、残り時間10分まではリードしていた。しかし、日新・源内などのポストシュートや坂口のロングなどで24分過ぎに25−24と逆転し、28−25と3点差をつけて勝利を収めた。

〔大崎〕	得		得	〔日新〕
工藤	0	GK	0	篠原
渡辺	0		0	宇田川
大橋	3	FP	4	堀田
武田	1		1	武田
首藤	4		7	西山
小野	0	〔審・大河原 池田〕	1	甲斐
魚住	5		2	林
甲斐	1		2	木村
菅田	0		1	池田
宮下	6		4	源内
柏崎	0		5	坂口
土屋	5		1	野中
25	(0)	PT	(3)	28

大同特殊鋼 25 (12−14, 13−7) 21 中村荷役運輸

〔戦評〕豪快なシュート力を持つフローターの打ち合いになった。大同・盧と内藤とのポストプレーを使い、中村を攻めつける。しかし、対する中村は呉と田口のロングと雨宮など鋭いプレーで反撃する。中村は前半は2点のリードで終了する。

後半開始8分、大同・末岡のシュートで15−15の同点に追いつく。さらに波に乗る大同は4点を連取するなどリードを広げ、中村を突き放した。中村も終盤、相手ミスからの速攻で反撃したが及ばなかった。

〔荷役〕	得		得	〔大同〕
石井	0	GK	0	秋吉
井上	0		0	林
田口	3	FP	3	内藤
西村	4		5	高村
朴	2		0	朝生
雨宮	3	〔審・後藤 島田〕	1	植木
八尾	1		7	盧
元島	0		2	藤井
高木	0		4	末岡
呉	8		2	佐藤
田中	0		1	阿萬
明石	0		0	宇多村
21	(4)	PT	(1)	25

◈栃木市総合体育館

三陽商会 33 (15−15, 18−10) 25 トヨタ自動車

〔戦評〕前半は、三陽・大村の速攻、飯嶋のミドル、トヨタは山ノ内のサイドシュート、三輪のロングなどで一進一退の攻防。三陽の方がやや攻めで優位に見えるが、トヨタGK富森が要所でキープするため前半は15−15で折り返す。

後半13分まで三陽の飯嶋はミドル、速攻など6点をあげる活躍を見せ、4点差をキープしながらその後は一進一退の攻防が続いた。後半残り5分から三陽はトヨタのミスに乗じて連続速攻を決め、差を広げて快勝した。

〔自動車〕	得		得	〔三陽〕
山本	0	GK	0	宇田川
富森	0		0	高橋
香井	8	FP	1	浜川
川田	4		13	飯嶋
光田	0		3	小河原
田村	2	〔審・浜田 小笠原〕	2	渡辺
三輪	5		3	佐藤
山ノ内	3		2	浜田
杉元	3		2	田中
大塚	0		1	近藤
田中	0		3	湯井
柳	0		3	大村
25	(3)	PT	(3)	33

◈湧永満之記念体育館

湧永製薬 26 (14−10, 12−14) 24 本田技研

〔戦評〕両チーム立ち上がり単調でなかなか得点できない。前半4分間無得点のまま進んだが、湧永・中山の先制から得点が動きだした。その後は湧永の積極的なディフェンスで本田はシュートチャンスがない。その間、湧永は速攻、サイド、カットインと得点、7分には10−4と大きくリードした。本田もGK橋本の好守などで追い上げ14−10と4点差で折り返した。

後半立ち上がり、本田が速攻で先制、その後は本田・弥吉、丹羽のミドル、湧永は中山のロング、ミドルシュートなどで一進一退のまま展開。残り3分、本田は1点差としてPTを得たが湧永GK河野の好守にあい追いつけなかった。

〔本田〕	得		得	〔湧永〕
高木	0	GK	0	多田
橋本	0		0	河野
弥吉	4	FP	3	酒巻
丹羽	3		5	河原
藤井	3		1	玉村
立木	0	〔審・森山 高橋〕	2	堀田
内藤	2		2	新井
梅基	1		7	中山
田口	0		4	長沢
平松	4		1	荷川取
山村	7		0	鎌塚
関根	0		1	田中
24	(3)	PT	(4)	26

第6週第1日(7月11日)

◈知立市福祉体育館

中村荷役運輸 40 (21−13, 19−17) 30 トヨタ自動車

〔戦評〕前半5分過ぎより中村はトヨタのディフェンスの甘さをつき、呉の高い打点から3連続シュート、速攻と思い通りの試合を進め、前半で21−13と大差をつけた。

後半、トヨタは呉に光田をマンツーでつけ、その動きを封じ何とか得点差を縮めようとした。呉の動きを封じられることで中村の攻めにも単調さが見られ、追いつ追われつの試合となった。しかし、全体としてトヨタのミスが目立ち、中村の快勝となった。

〔自動車〕	得		得	〔荷役〕
山本	0	GK	0	石井
富森	0		0	井上
香井	5	FP	4	田口
川田	5		9	西村
光田	8		3	朴
田村	5	〔審・川島 森〕	4	雨宮
三輪	5		2	八尾
山ノ内	0		2	元島
杉元	2		3	高木
大塚	0		1	岩戸
田中	0		10	呉
柳	0		2	明石
30	(0)	PT	(4)	40

第6週第2日(7月12日)

◈野辺地町立体育館

日新製鋼 33 (15−16, 18−16) 32 三陽商会

〔戦評〕前半、両チーム1点の取り合いのシーソーゲームを展開。20分過ぎに三陽が2点のリードを奪うが、25分過ぎに日新が追いつき、16−15と三陽の1点リードで前半を終わる。

後半、三陽・飯嶋のシュートで3点差とし、その後、日新にあせりが見えた。しかし、26分に日新がようやく追いつき、いったんは三陽が突き放すが、再び28分過ぎに日新がPTを決めて同点、さらにその直後、日新・源内がサイドからのシュートを決めて鮮やかに逆転勝ちを収めた。

〔三陽〕	得		得	〔日新〕
藤原	0	GK	0	篠原
高橋	0		0	宇田川
浜川	0	FP	4	堀田
飯嶋	12		0	武田
小河原	6		6	西山
大坪	0	〔審・小笠原 江成〕	5	甲斐
渡辺	5		1	林
佐藤	0		4	木村
浜田	2		0	池田
田中	4		8	源内
湯井	0		5	坂口
大村	3		0	野中
32	(1)	PT	(6)	33

◈小松総合体育館

本田技研 24 (9−6, 15−8) 14 大崎電気

〔戦評〕魚住、宮下らで攻める大崎が、前半15分過ぎまでは5−3とリードしていたが、2度の退場者をだす間に本田が速攻などで得点、逆に9−6と3点をリードして前半を終える。

後半に入っても本田のペースは変わらず、速攻、サイド、ポストと幅広く加点して着々とリードを

広げ、大崎につけ入るスキを与えなかった。

得	〔本田〕		〔大崎〕	得
0	高木	GK	工藤	0
0	橋本		渡辺	0
6	弥吉	FP	大橋	1
2	丹羽		武田	1
2	藤井		首藤	2
0	立木	〔審・古橋・中村〕	小野	0
1	内藤		魚住	3
4	梅基		甲斐	1
1	田口		菅田	2
3	平松		宮下	4
4	山村		柏崎	0
1	関根		土屋	0
24	(2)	PT	(3)	14

■香川町総合体育館

湧永製薬29〔16−11 / 13−16〕**27大同特殊鋼**

〔戦評〕伝統の一戦は最初からエキサイティングな展開で、湧永・中山、大同・高村、盧らが目のさめるようなロングを決め、観衆のド肝をぬく。互いに固いガードから相手ミスに乗じた速攻で点を取り合い、目まぐるしくメンバーチェンジをするが、決め手のないまま湧永の5点リードで前半を終了。

後半に入って、大同は盧を中心に追い上げ、19分には21−20と逆転に成功したが、湧永は前半不調だった玉村が3連続ゴールして再逆転、傾きかけて流れを再び引き寄せた。終盤、大同も懸命の粘りを見せたが及ばなかった。

得	〔湧永〕		〔大同〕	得
0	多田	GK	秋吉	0
0	河野		林	0
3	酒巻	FP	内藤	2
4	河原		高村	4
4	玉村		朝生	2
4	堀田	〔審・竹村・坂井〕	植木	2
3	新井		盧	8
5	中山		藤井	3
2	長沢		末岡	1
1	鎌塚		佐藤	5
0	松本		阿萬	0
3	田中		宇多村	0
29	(4)	PT	(3)	27

女子1部

第1週第1日(6月6日)

■鈴鹿市立体育館

オムロン21〔11−11 / 10−6〕**17ジャスコ**

〔戦評〕オムロンは、立ち上がり相手のミスに乗じて速攻で2点を連取、優位に立ったが、ジャスコは土師の3連続得点で一挙にはね返した。その後一進一退のゲーム展開で、前半は11−11で終了した。

後半に入っても両チームともに譲らず、1点を争う好ゲームを展開した。後半23分、オムロンは中山がシュートを決めて2点のリードを奪い、そのまま逃げ切った。

得	〔オム〕		〔ジャス〕	得
0	川島	GK	小林	0
0	城下		長谷川	0
0	上田	FP	林	2
2	橋本		東出	2
7	中山		勝島	0
1	斉藤	〔審・小山・佐路〕	金	6
0	古田		山田	0
4	比嘉		飯田	0
3	石村		成澤	0
2	吉田		土師	7
0	光井		市川	0
2	田中		日坂	0
21	(2)	PT	(1)	17

第2週第1日(6月14日)

■緑ヶ丘スポーツ公園体育館

ジャスコ26〔10−9 / 16−8〕**17シャトレーゼ**

〔戦評〕ジャスコが1分過ぎに金で先制。シャトレーゼもいったん2−1と逆転したものの、そこからジャスコが5点を連取、一気に優位に立った。シャトレーゼも以後じりじりと追い上げ、結局10−9とジャスコが1点をリードして前半を終了。

後半に入っても幅広い攻撃と安定した力を出すジャスコが、じりじりとシャトレーゼを引き離し、最後は26−17と大差をつけて勝利を収めた。

得	〔ジャス〕		〔シャト〕	得
0	小林	GK	村山	0
0	長谷川		工藤	0
6	林	FP	小松	1
4	東出		山岸	4
1	勝島		松沢	1
9	金	〔審・小笠原・江成〕	野沢	1
0	山田		芦ヶ谷	0
2	飯田		小野寺	5
1	成澤		鶴田	0
2	土師		千葉	1
1	市川		小俣	4
0	小野		峯	0
26	(1)	PT	(4)	17

■富山市体育館

北国銀行36〔18−15 / 18−20〕**35大和銀行**

〔戦評〕両チームともによく動き、スピーディな目を離せない好試合を展開した。前半20分過ぎからの北国・金の3連続得点でのリードをそのまま保って、北国が前半を18−15と3点をリードする。

後半も前半同様目の離せない展開となった。残り3分、北国・森の退場の間に大和が3得点し残り1分で1点差となる。しかし、北国がボールをキープしつづけて1点差のままゲーム終了。

得	〔北国〕		〔大和〕	得
0	古澤	GK	増見	0
0	佐合		上田	0
11	松田	FP	西口	2
2	松下		木口	11
1	釣川		小池	9
1	西川	〔審・中山・矢田〕	伊藤	1
1	坂井		日野	3
9	金		橋本	1
0	上田		松田	7
0	松山		荒川	1
4	森		吉村	0
7	谷本		碇	0
36	(4)	PT	(4)	35

■下関市立体育館

オムロン28〔16−12 / 12−10〕**22大崎電気**

〔戦評〕前半立ち上がり、動きの良いオムロンがリードするが、10分過ぎに大崎が7−7の同点に追いつく。しかし、オムロンは大崎・尹にマンツーをつけ、GKの好

得	〔オム〕		〔大崎〕	得
0	川島	GK	南雲	0
0	城下		宗片	0
0	上田	FP	杉原	0
1	橋本		前川	1
4	中山		広瀬	1
4	斉藤	〔審・山根・岡村〕	酒井	2
0	古田		鷲宮	0
7	比嘉		野田	1
5	石村		金	5
2	吉田		尹	10
1	光井		冨田	0
4	田中		田中	2
28	(3)	PT	(4)	22

守や速攻で再び突き放し、16－12として前半を折り返す。
後半に入ってもオムロンのペースは変わらず、大崎は5対5が攻め切れない。尹のマンツーがはずれた時には大崎も得点が入るが、点差をつめることができなかった。

第3週第1日（6月20日）

◈春日井総合体育館

北国銀行36（15－16、21－12）28大崎電気

〔戦評〕立ち上がりから北国は大崎の大砲・尹を完全にマンツーマン。しかし、大崎はディフェンスの空間をポストがうまく利用し、金が絶妙のパスを次々と通し加点する。一方の北国はスピーディな展開から金のミドル、またポストが絡み反撃する。中盤から金にマンツーマンをかけられ、ペースを崩しかけたが、松田らのがんばりで一進一退の好ゲームを展開。
後半、両チームともに退場者が続出する荒いゲームになりかけたが、北国は粘り強いディフェンスから速攻主体の攻撃で完全にリズムをつかむ。結局、スピードハンドボールに徹した北国の快勝であった。

得	〔北国〕		〔大崎〕	得
0	岩井	GK	南雲	0
0	古澤		宗片	0
8	松田	FP	杉原	0
7	松下		前川	2
0	釣川		広瀬	3
0	西川		酒井	0
0	坂井		鷲宮	1
10	金		野田	2
4	上田		金	4
0	松山		尹	10
1	森		冨田	0
6	谷本		田中	6
36	(4)	PT	(5)	28

〔審・岩本 板倉〕

第3週第2日（6月21日）

◈飛騨体育館

オムロン22（11－11、11－6）17シャトレーゼ

〔戦評〕立ち上がり、リバウンドからシャトレーゼ小松の先制シュートにオムロン中山のカットインシュートで同点。その後、オムロンも固いディフェンスから速攻につなぎ比嘉、中山、斉藤が立て続けに決めて3点差。シャトレーゼも山岸のミドル、小俣のサイドシュートで応戦して11－11の同点で前半を終了する。
後半5分、シャトレーゼは小松の退場に続き不正入場で2人目の退場と苦しい展開となったが、ここを1点の失点でしのいだが、その後のPTを2本連続ではずしたのが響き、17分には18－12と6点差をつけられる。シャトレーゼも松沢のミドル、速攻で粘り強く攻めるが点差はつめられなかった。

得	〔オム〕		〔シャト〕	得
0	川島	GK	村山	0
0	城下		工藤	0
0	上田	FP	小松	2
3	橋本		山岸	5
6	中山		松沢	5
1	斉藤		野沢	0
0	古田		芦ヶ谷	0
8	比嘉		小野寺	0
2	石村		鶴田	1
0	吉田		千葉	0
0	光井		小俣	4
2	田中		原子	0
22	(3)	PT	(4)	17

〔審・楓 渡辺〕

◈神戸市立中央体育館

ジャスコ34（14－9、20－12）21大和銀行

〔戦評〕立ち上がりから大和・木口とジャスコ・金を中心とする激しい攻防がくり広げられ、ジャスコ・土師を最初から密着マンツーした大和が中盤までリードする。しかし、機動力に勝るジャスコが15分以降、林、東出、金らの速攻、ポスト、サイドでたたみかけて一気に逆転、14－9と5点をリードして前半を終る。
後半も金、林のパスワークから東出、山田がいきいきとシュートを放ち、小池、松田で奮闘する大和を圧倒、13点の大差で楽勝した。

得	〔ジャス〕		〔大和〕	得
0	小林	GK	増見	0
0	長谷川		上田	0
4	林	FP	西口	2
3	東出		木口	11
6	勝島		小池	3
9	金		伊藤	3
4	山田		日野	0
5	飯田		橋本	0
1	成澤		松田	2
2	土師		荒川	0
0	市川		吉村	0
0	日坂		碇	0
34	(4)	PT	(2)	21

〔審・浜田 浅井〕

第4週第1日（6月28日）

◈岡山市総合体育館

大崎電気25（15－9、10－11）20大和銀行

〔戦評〕前半、大崎が広瀬、酒井、野田の連続得点により3点をリード、幸先の良いスタートを切った。これに対し、大和もGKの好守、松田の速攻などで1点差まで追い込んできた。しかし、大崎も着実に加点、一進一退の展開ながらじりじりとリードを広げ、15－9と6点をリードして前半を終了。
後半に入り、立ち上がり大和が先制して4点差までつめるが、そこから追いきれず、結局、大崎が前半の貯金を守って逃げ切った。

得	〔大崎〕		〔大和〕	得
0	南雲	GK	増見	0
0	宗片		上田	0
0	杉原	FP	西口	0
3	前川		木口	5
1	広瀬		小池	1
6	酒井		伊藤	3
3	鷲宮		日野	2
7	野田		橋本	0
0	金		松田	4
4	尹		荒川	5
0	冨田		吉村	0
1	田中		碇	0
25	(2)	PT	(0)	20

〔審・竹村 坂井〕

第4週第2日（6月28日）

◈呉市体育館

北国銀行26（11－9、15－15）24シャトレーゼ

〔戦評〕前半の立ち上がりは両チームともミスが目立ち、無得点の状態が長く続いた。シャトレーゼでは小俣のサイドシュート、北国では金のカットインや速攻がコンスタントに決まり、一進一退の攻防が続き、11－9で前半を終了。
後半に入るとシャトレーゼ山岸のロングシュート、北国の松下のサイド、谷本のポストがよく決まり、競り合うゲームになった。そして、終了1分前、北国・金のPT、松田の速攻がたて続けに決まり、勝越し点となって北国が接戦をものにした。

得	〔北国〕		〔シャト〕	得
0	岩井	GK	村山	0
0	古澤		工藤	0
2	松田	FP	小松	2
5	松下		山岸	6
0	釣川		松沢	1
0	西川		野沢	0
0	坂井		芦ヶ谷	2
8	金		小野寺	2
0	金		鶴田	3
3	上田		千葉	0
2	森		小俣	8
6	谷本		峯	0
26	(3)	PT	(5)	24

〔審・中本 池田〕

第5週第4日（7月5日）

◈東根市民体育館

北国銀行31（17－16、14－12）28ジャスコ

〔戦評〕両チームとも1点を奪い合うゲームとなった。前半、北国・金のロングや谷本のポストシュートなどで得点すれば、ジャスコは林のカットインプレーや金のロングなどで取り返した。結局、北

得	〔北国〕		〔ジャス〕	得
0	岩井	GK	小林	0
0	古澤		長谷川	0
0	上出	FP	林	7
3	松田		東出	4
6	松下		勝島	3
0	釣川		金	11
0	坂出		山田	0
9	金		飯田	2
2	金		成澤	1
2	上田		土師	0
4	森		市川	0
5	谷本		日坂	0
31	(3)	PT	(1)	28

〔審・田村 谷藤〕

国の1点リードで折り返した。
　後半も前半と同じ流れとなった。北国・金の2度の退場もあり、ジャスコは1点差までは追い上げるものの逆転はならなかった。

◈栃木市総合体育館

シャトレーゼ 26〔15―10／11―12〕22 大崎電気

〔戦評〕開始直後よりシャトレーゼは大崎・尹にマンツーマンのディフェンスをつけ、攻めても小松のロングなどで徐々に差を広げていった。フリースローから大崎も尹にボールをまわして攻めるが、GK村山の守りがよく、前半は15―10とシャトレーゼがリード。
　後半、大崎は速攻、ポストプレーなどで追いつこうとするが、シャトレーゼGK村山にことごとくシャットアウトされ、差が縮まらない。残り5分、大崎は尹、田中の速攻などで3点差まで追いすがったが、シャトレーゼの粘り勝ち。

〔大崎〕	得
GK 南雲	0
GK 宗片	0
FP 目黒	2
杉原	1
前川	0
広瀬	1
酒井	3
鷲宮	0
野田	2
金	0
尹	11
田中	2
PT (1)	22

審・中山・大出

〔シャト〕	得
GK 村山	0
GK 工藤	0
FP 小松	8
山岸	4
松沢	4
野沢	1
芦ヶ谷	0
小野寺	3
鶴田	3
千葉	0
小俣	3
工藤	0
PT (5)	26

◈湧永満之記念体育館

オムロン 28〔17―14／11―10〕24 大和銀行

〔戦評〕オムロンが開始早々PTで得点し、常にリードを奪う展開。大和も固い守りから速攻やサイド攻撃が冴え、追いつ追われつのゲームとなる。前半終了5分前、オムロンが得点を重ね、3点のリードで前半を折り返す。
　後半はお互い点の取り合いとなりなかなか点差がつまらなかったが、10分過ぎ頃から大和のポスト、サイドプレーが冴え、2点差まで追い上げた。しかし、残り5分を切った頃から大和の動きが鈍くなり、攻めが単調となって、結局、28―24でオムロンが勝利を収めた。

〔大和〕	得
GK 増見	0
GK 上田	0
FP 西口	1
木口	6
小池	6
日野	3
橋本	0
松田	2
荒川	5
吉村	0
碇	0
伊藤	1
PT (2)	24

審・武智・松原

〔オム〕	得
GK 川島	0
GK 城下	0
FP 上田	0
橋本	1
中山	7
斉藤	4
古田	0
比嘉	7
石村	2
吉田	1
光井	0
田中	6
PT (5)	28

第6週第2日（7月12日）

◈野辺地町立体育館

ジャスコ 34〔15―15／19―16〕31 大崎電気

〔戦評〕前半、大崎・尹が先制するが、すぐにジャスコも東出が返し一進一退の展開。中盤は大崎が6点を連取して23分過ぎには10―7と3点をリードしたが、ジャスコも粘り強く追いかけ、前半終了間際に追いついて15―15の同点で折り返す。
　後半はジャスコが先手を取ったが大崎がすぐに逆転、再び前半と同様一進一退のゲーム展開となる。中盤、相手のミスをついてジャスコがじりじりとリードを広げ、終盤粘る大崎をふり切って34―31で逃げ切った。

〔大崎〕	得
GK 南雲	0
GK 宗片	0
FP 目黒	0
杉原	2
前川	6
広瀬	0
酒井	0
鷲宮	1
野田	6
金	2
尹	10
田中	4
PT (6)	31

審・町屋・佐々木

〔ジャス〕	得
GK 小林	0
GK 長谷川	0
FP 林	4
東出	10
勝島	4
金	3
山田	3
飯田	1
成澤	2
土師	7
市川	0
日坂	0
PT (5)	34

◈小松市総合体育館

北国銀行 27〔11―14／16―12〕26 オムロン

〔戦評〕スピードある両チーム、予想通り激しいプレーの応酬からお互いうまみのあるプレーで得点を重ねる。北国・松田、オムロン・比嘉を中心に一歩も譲らない。動きが見えたのは20分過ぎ。北国・金がすばらしい同点シュートを決めて気を良くしたのか連続の好アシストを続け、前半を16―12と4点差で北国がリードし終了。
　後半に入り、当たりの出てきた北国をオムロンがマンツーマンで守り懸命に反撃を試みるが、北国もよく粘り前半のリードを辛うじて守り1点差で勝利をものにした。

〔オム〕	得
GK 川島	0
GK 城下	0
FP 上田	0
橋本	2
中山	5
斉藤	1
古田	0
比嘉	11
石村	3
吉田	0
田中	4
張	0
PT (2)	26

審・・阿部羅・浜野

〔北国〕	得
GK 岩井	0
GK 古沢	0
FP 松田	7
松下	3
釣川	0
西川	0
坂井	0
金	8
金金	0
上田	1
森	1
谷本	7
PT (3)	27

◈香川町総合体育館

シャトレーゼ 25〔9―6／16―10〕16 大和銀行

〔戦評〕立ち上がりからシャトレーゼの一方的な展開で、大和のミスに乗じて次々と速攻、ロングで10分過ぎには6―1とリード。木口が頼りの大和も、シャトレーゼGK村山の好キーピングに阻まれて得点が伸びず、3点差までつめるのが精一杯で前半を終了。
　後半もシャトレーゼは全員攻撃で危なげなく得点を重ね、14分には18―9のダブルスコアーとして勝負を決した。

〔大和〕	得
GK 増見	0
GK 上田	0
FP 西口	3
木口	4
小池	1
伊藤	2
日野	2
橋本	0
松田	4
荒川	0
吉村	0
碇	0
PT (1)	16

審・多田・杉山

〔シャト〕	得
GK 村山	0
GK 工藤	0
FP 小松	4
山岸	7
松沢	3
野沢	3
芦ヶ谷	0
小野寺	1
鶴田	2
千葉	0
小俣	5
峯	0
PT (6)	25

男子2部

◆第1週第1日（6月6日）
豊田自動織機総合体育センター

三景 28（16－14、12－10）24 竹芝精巧
本田技研熊本 32（18－11、14－16）27 大阪ガス
日本電装 34（12－11、22－9）20 北陸電力
トヨタ車体 43（22－12、21－11）23 豊田自動織機

◆第1週第2日（6月7日）
豊田自動織機総合体育センター

本田技研熊本 30（17－10、13－11）21 竹芝精巧
大阪ガス 27（11－16、16－11）27 北陸電力
トヨタ車体 28（12－12、16－14）26 三景
日本電装 28（12－10、16－7）17 豊田自動織機

◆第2週第1日（6月14日）
富山市体育館

竹芝精巧 26（14－9、12－9）18 北陸電力

東海市民体育館

大阪ガス 25（15－12、10－8）20 豊田自動織機

◆第3週第2日（6月21日）
豊田市体育館

トヨタ車体 21（9－7、12－13）20 本田技研熊本

◆第5週第1日（7月1日）
東京体育館

三景 26（16－15、10－11）26 日本電装

◆第5週第3日（7月4日）
八幡市民体育館

三景 19（7－9、12－9）18 本田技研熊本
日本電装 21（10－8、11－10）18 大阪ガス
トヨタ車体 22（12－12、10－9）21 竹芝精巧
北陸電力 30（10－14、20－11）25 豊田自動織機

◆第6週第5日（7月5日）
八幡市民体育館

三景 25（11－6、14－12）18 大阪ガス
日本電装 23（17－7、6－14）21 本田技研熊本
竹芝精巧 29（17－13、12－13）26 豊田自動織機
トヨタ車体 24（12－7、12－8）15 北陸電力

◆第6週第1日（7月11日）
大阪市中央体育館

三景 26（13－9、13－10）19 豊田自動織機
本田技研熊本 22（13－11、9－7）18 北陸電力
トヨタ車体 33（14－12、19－13）25 日本電装
大阪ガス 33（17－12、16－12）24 竹芝精巧

◆第6週第2日（7月12日）
大阪市中央体育館

日本電装 29（17－15、12－11）26 竹芝精巧
トヨタ車体 31（19－10、12－16）26 大阪ガス
北陸電力 24（10－11、14－10）21 三景
本田技研熊本 31（13－9、18－11）20 豊田自動織機

女子2部

◆第1週第2日（6月7日）
国分市総合体育館

ソニー国分 39（15－5、14－2）7 日本ビクター

◆第2週第1日（6月14日）
緑ケ丘スポーツ公園体育館

ムネカタ 24（12－10、12－10）20 日本ビクター

東海市民体育館

JUKI 25（11－9、14－8）17 ブラザー工業

下関市体育館

日立栃木 30（17－11、13－7）18 ソニー国分

◆第3週第1日（6月20日）
春日井市総合体育館

日立栃木 24（11－10、13－9）19 JUKI

◆第3週第2日（6月21日）
豊田市体育館

ブラザー工業 33（19－2、14－6）8 日本ビクター

神戸市立中央体育館

JUKI 19（11－7、8－10）17 ソニー国分

◆第4週第1日（6月27日）
岩井市総合体育館

日立栃木 38（21－8、17－6）14 日本ビクター
ブラザー工業 31（14－16、17－9）25 ムネカタ

◆第5週第2日（7月2日）
東京体育館

JUKI 27（13－3、14－9）12 ムネカタ

◆第5週第4日（7月5日）
栃木市総合体育館

日立栃木 32（15－5、17－11）16 ムネカタ

湧永満之記念体育館

ブラザー工業 27（11－10、16－11）21 ソニー国分

◆第6週第1日（7月11日）
知立市福祉体育館

日立栃木 27（16－11、11－12）23 ブラザー工業

◆第6週第2日（7月12日）
野辺地町立体育館

ソニー国分 34（19－9、15－11）20 ムネカタ

小松市総合体育館

JUKI 38（21－5、17－7）12 日本ビクター

第１７回日本ハンドボールリーグ成績表

〔１部男子〕	大同	日新	本田	湧永	大崎	中村	三陽	トヨタ	勝数	分数	敗数	勝点	総得点	総失点	差	順位
大同特殊鋼		●24	●19	●27	△23	○25	○35	○30	3	1	3	7	183	171	12	5
日新製鋼	○28		○28	●24	○28	○27	○33	○40	6	0	1	12	208	179	29	1
本田技研	○20	●21		●24	○24	○23	○29	○29	5	0	2	10	170	150	20	3
湧永製薬	○29	○31	○26		●26	○31	○27	○30	6	0	1	12	200	168	32	1
大崎電気	△23	●25	●14	○28		○23	○29	○48	4	1	2	9	190	173	17	4
中村荷役運輸	●21	●24	●21	●18	●20		○30	○40	2	0	5	4	174	184	-10	6
三陽商会	●23	●32	●20	●23	●28	●25		○33	1	0	6	2	184	208	-24	7
トヨタ自動車	●27	●22	●22	●24	●24	●30	●25		0	0	7	0	174	250	-76	8

〔１部女子〕	大崎電気	オムロン	北国銀行	シャトレーゼ	大和銀行	ジャスコ	勝数	分数	敗数	勝点	総得点	総失点	差	順位
大崎電気		●22	●28	●22	○25	●31	1	0	4	2	128	144	-16	4
オムロン	○28		●26	○22	○28	○21	4	0	1	8	125	107	18	2
北国銀行	○36	○27		○26	○36	○31	5	0	0	10	156	141	15	1
シャトレーゼ	○26	●17	●24		○25	●17	2	0	3	4	109	112	-3	5
大和銀行	●20	●24	●35	●16		●21	0	0	5	0	116	148	-32	3
ジャスコ	○34	●17	●28	○26	○34		3	0	2	6	139	121	18	6

〔２部男子〕	三景	本田熊本	日本電装	トヨ車	竹芝	大ガス	豊田織機	北陸電力	勝数	分数	敗数	勝点	総得点	総失点	差	順位
三景		○19	△26	●26	○28	○25	○26	●21	4	1	2.	9	171	157	14	3
本田技研熊本	●18		●21	●20	○30	○32	○31	○22	4	0	3	8	174	149	25	4
日本電装	△26	○23		●25	○29	○21	○28	○34	5	1	1	11	186	161	25	2
トヨタ車体	○28	○21	○33		○22	○31	○43	○24	7	0	0	14	202	156	46	1
竹芝精巧	●24	●21	●26	●21		●24	○29	○26	2	0	5	4	171	186	-15	7
大阪ガス	●18	●27	●18	●26	○33		○25	△27	2	1	4	5	174	180	-6	5
豊田自動織機	●19	●20	●17	●23	●26	●20		●25	0	0	7	0	150	212	-62	8
北陸電力	○24	●18	●20	●15	●18	△27	○30		2	1	4	5	152	179	-27	5

〔２部女子〕	日立栃木	プラザー	ソニー	ＪＵＫＩ	ムネカタ	ビクター	勝数	分数	敗数	勝点	総得点	総失点	差	順位
日立栃木		○27	○30	○24	○32	○38	5	0	0	10	151	90	61	1
プラザー工業	●23		○28	●17	○31	○33	3	0	2	6	132	106	26	3
ソニー国分	●18	●21		●17	○31	○39	2	0	3	4	129	104	25	4
ＪＵＫＩ	●19	○25	○19		○27	○38	4	0	1	8	128	82	46	2
ムネカタ	●16	●25	●20	●12		○24	1	0	4	2	97	144	-47	5
日本ビクター	●14	●8	●7	●12	●20		0	0	5	0	61	172	-111	6

全日本男子チーム
フランス遠征に参加して

藤井健一
（浜脇病院）

チャレンジ・インターナショナル・ジョジマレーヌ（フランスカップ）大会が、1992年5月19日から24日まで世界チャンピオンのスウェーデンをはじめとして7か国8チームが参加して、フランスのパリで開催された。

日本選手団の構成は、選手16名、役員（団長、監督、コーチ、ドクター、トレーナー）6名であった。

今回、チームトレーナーとして参加する機会を得たので、活動内容を報告する。

◆活動内容

今回の遠征で、トレーナーとしてまず行なったことは、ナショナルチームがアトランタ・オリンピックに向けてメンバーが一新し、選手個々のコンディションがしっかりと把握されていなかったので、メディカルチェックを実施した。

次に、選手の栄養管理のためにメニューチェックリストを配布して、摂取した食物を記入させ、それによって食事指導を行なった。

また、トレーナーの活動として最も基本的なストレッチ・スポーツマッサージは、かなりの頻度で実施し、肩板損傷のH選手に対しては、理学療法としてクライオセラピー及びPNFを施行してROMの改善と筋力増強に努めた。

テーピングに関しては、足関節の内反捻挫予防のテーピングを例にあげていえば、スターアップテープのかわりに扇型スパイラル法を用いて足関節の底背屈の制限をより少なくし、なおかつ内反制限の効いたファンクショナルなテーピングの方法を指導した。

アイシングに関しては、練習及び試合後は疼痛、熱感のある部位に10～20分、氷を使ってアイシングするよう指導した。

◆まとめ

今回、チームトレーナーとして参加して、選手個々のコンディションを大会期間中維持していくことの難しさをあらためて感じました。フランスカップが開幕してから対フランス、対スウェーデン、対キューバ戦と選手一人一人がかなりいい動きをしており、試合の方も大健闘でしたが、大会が進むにつれ、疲れからか動きも悪く、集中力も欠けて対チェコスロバキア、対イブリ戦では大敗してしまいました。

今回の遠征で、選手のコンディションを整える弊害となった要因を大きく3つに分けてみると、まず第一に日程の問題があげられる。今回の遠征が2週間という短い期間で、自由な時間が極端に少なく、また、大会期間中も、フランスやイブリチームに合せた日程であったため、5日間連続で試合が組まれた。このため、選手が身体的にも、精神的にもストレスが増大したことが要因の一つであると思われる。

第二に試合時刻の問題があげられる。フランスは現在サマータイムのため、午後10時頃まで日が暮れず、試合の方も午後8時頃からスタートとかなり遅い。加えて試合終了後夕食会が催され、ホテルに帰るのが午後11時前後、それからストレッチやマッサージを行って午前1時～2時就寝。

翌朝は午前10時より練習があるため午前8時には朝食を摂らねばならず、選手の睡眠時間は毎日6時間程度で、かなり不足していると思われた。それに伴って、下肢のだるさや腰背部痛を訴える選手が大会に進むにつれて増えはじめた。

第三の要因としては、毎日同じようなメニューの食事による栄養バランスの悪さがあげられる。特に目についたのが、野菜が極端に少なく、油っこい肉類が多いことです。このため選手の食欲低下によるスタミナ不足が大きく影響したように思う。

前回、アジア選手権大会にチームトレーナーとして参加した際の反省及び課題としてあげた。

①チームトレーナーの役割と選手がベストな状態でプレーできるように監督、コーチ、ドクターと十分なミーティングをし、選手の状態を熟知したうえで、個人に応じたコンディションづくりを行うこと。

②選手一人一人がコンディションを自己管理できる技術の指導。

という2点について、今回のフランス遠征をふり返ってみると、①については、メディカルチェックをはじめとして、監督、コーチ、ドクターと十分に選手の状態について話し合う時間が持て、コンディションづくりに役立てることができた。

②については、腰痛体操やバランスエクササイズなどのパンフレットを配布したり、PNFストレッチの方法を実際に行なってみせたりして、自分のコンディションを自分で整える方法を指導した。

また「自己管理のできる選手が真の一流選手でありプロである」という意識をもたせるようにも努めた。

これによって、選手たちの自己管理能力がどの程度向上するかが今後、試合で100パーセントの力を発揮するための一番の課題であると思われる。

最後に、レセプションの席上でスウェーデンチームのチームトレーナーと話をする機会を得たので報告する。

スウェーデンチームには、ドクターとマッサージを中心として、理学療法士やスポーツトレーナーなどを雇ってコンディショニングセンターを経営しているそうで、ナショナルチームが遠征するときは必ず帯同して選手のコンディションづくりを行なっている。

また、コンディショニングセンターは、直接病院とつながっていて、病院→コンディショニングセンター、コンディショニングセンター→病院といった形で患者及びスポーツ選手の治療に関与している。チームに帯同中に行なっていることとしては、スポーツマッサージが中心で、トレーナーバッグの中味も、テーピングテープ、コールドスプレー、マッサージクリームなど、これといってかわったものはなかった。

今回、トレーナーとして海外遠征に帯同させていただいた貴重な経験と反省をもとに、さらにトレーナーとしての知識、技術面を向上させて、今後の活動に生かしていきたい。

全日本男子チーム
フランス遠征に参加して

高原茂之
(浜脇病院)

過去、球技というものに縁のなかった私であるが、今回全日本男子ハンドボールチームのフランス遠征に同行する機会に恵まれた。この2週間に監督・コーチ以下、全日本選手たちと接し、彼らのハンドボールに対する情熱を感じるとともに、私なりにその改善点を考えさせられたため、この機会に報告したいと思う。

遠征にあたり、私は3つの目標を持っていた。それは、

①出来るかぎり選手達とコミュニケーションを図り、信頼関係を持つこと。

②トレーナーと協力し、診断・治療を円滑にすること。

③選手たちに自己管理の意識を持ってもらうこと。

以上の3つである。

特に、今回はアジア地区予選後にチーム全体が若返ったこと、また期間も2週間と比較的短かったこともあり、全身的な問題は少ないものと思われた。私自身のハンドボールに対する知識不足もあり、選手たちに自己管理の意識を持ってもらうことに重きを置くこととした。

具体的には、まず問診をとることにより自分たちの故障箇所を認識させ、これを基にしてミーティングにおいてしつこく故障・病気等に自覚を促した。さらにトレーナーと協力し、治療・予防を含めて練習や試合前後のテーピング・クーリング・マッサージを徹底させ、個人で実行可能なトレーニングメニューを作成した。また、症状に応じて投薬・注射等を併用した。

生活面では、食事内容・時間ともに日本とは異なるため、水道水の飲用を避けさせたうえで、食事内容・量を一覧表に記録させ、これを基に栄養学的に指導を行なうこととした。

遠征において、私の感じた問題点は、以下の2点であった。

①予想以上に選手の疲労度が高かったこと。

②自己管理に対する意識が不十分であったこと。

①については、ナショナルチームとはいえ、その基盤は各実業団にあり、当然のことながら国内大会に重きが置かれている。このうえに全日本としての練習・遠征等が加わることとなり、選手たちにかかる負担は非常に重くなっているのが現状である。

この問題は、選手たちの故障・体調に密接に関わっており、しかも選手たち自身では解決は困難である。今後の関係者各位の理解と援助が必要であろう。

また、精神面で選手たちに自覚を持ってもらうためにナショナルチームにもっとプライドとステータスを持たせることが必要であろう。試合に勝つことがベストであることはわかっているが、それ以前に全日本選手をある程度優遇する必要性があるのではなかろうか。少なくとも、全日本以外のチームにはユニフォームに日の丸や〝JAPAN〟の文字を入れさせない等、プライドを持たせたうえでより高度なトレーニングをすれば、自ずから自覚が出てくるのではないかと思う。

②に関しては、選手たちが若く

かつ体力的にも恵まれていたため、かえって自己管理の意識が薄く、故障を放置するような傾向が見られた。これは同行したトレーナーの努力により、テーピング・クーリングの徹底、筋力トレーニングの指導を行い、また遠征後半では選手たちもかなり積極的に申告してくれるようになったため、ある程度解決できたのではないかと思う。

これらのことは、本来は実業団レベルで行なわれることが望ましく、より基礎的な部分での指導体制を確立させて欲しいと思う。ただ、最近実業団のなかには専属トレーナーが付くようになっているところもあり、この流れがさらに大きくなることを望みたい。

我々の側にも反省点が残った。それは、選手個人個人との対話がやや徹底しきれなかったこと、そして私の経験不足により、選手たちの要望に十分応えられなかったことである。

特にスポーツ医学・栄養学等へのより深い知識無くしては満足のいく指導が難しいことを実感した。また、今回のように短期間ではやはり矢面に立つのはトレーナーであり、その方面への知識も欠かせない。このことは今後の課題として心に留めておかなければならない。

今回はプレーヤー自身の要求を直接聞くことができ、さらにナショナルチームということで最高レベルのプレーを体験できたことは大きな成果であった。

今後は今回得た経験を糧として私のでき得るかぎりハンドボールと関わっていきたいと思う。

最後に、お世話になった植村団長、蒲生監督以下日本ハンドボール協会の関係者各位、また遠征に快く送り出してくださった浜脇院長以下、浜脇病院の皆様に感謝の意を表し、締めくくりとしたい。

障害部位

	頭	顔	頸	肩	肘	手	大腿	膝	下腿	足	内科	計
5/15			1	1		1		1		2		6
5/16		1			1	1				1	1	5
5/17	2			1		1				1	1	6
5/18		1						1		1	1	4
5/19		2			1				1	4	2	10
5/20												0
5/21				1	1		1			1	1	5
5/22		2				1					1	4
5/23		1										1
計	2	7	1	3	3	4	1	2	1	10	7	41

県協会だより

べにばな国体近し

山形県ハンドボール協会

昨年の山形自動車道の開通、庄内空港の開港そして、今年7月の新幹線の開通等でべにばな国体ムードに一層の盛り上がりが感じられる今日この頃の山形です。

私ども県協会においても大会準備や選手強化等最後の追い込みに入って来たところです。

「山形で国体をやりましょう」という言葉を耳にしたのが10年前のこと。当時は他人事のように思われ、遠い遠い先の話のようでした。その後は、不案とあせりの連続、気がついた時は、目の前にせまる大会となっていました。短くもあり、長かった10年間でした。

この間、何もわからなかった私どもでありましたが、日本ハンドボール協力はじめ山形県開催市、関係機関からのご支援、ご指導をいただき、一歩一歩前進し、今日に至っています。今は本大会の成功と本県総合優勝の達成を祈るだけです。

46回にわたるこれまでの国体開催の裏には、先催県の皆様方の大変な努力と苦労があったことを思うと頭の下がる思いです。

さて、ここでハンドボール会場を中心に、国体を間近にした山形を紹介します。

山形で開催する国体を「べにばな国体」と呼びます。ハンドボール競技は東根市と尾花沢市の2市で行います。

東根市は成年（成年男子一部二部、成年女子）の会場になります。県都山形市より北へ25kmに位置し、山形空港を有し、山形の空の玄関となっており、会場・宿舎には大変交通の便利なところです。いで湯と人情味あふれる東根温泉が全国からの役員選手の皆様をお待ちしています。また、当市は、果樹王国として四季折々のくだものがあり、10月ともなればりんごの最盛期かと思います。

少年男子の会場となります尾花沢市は東根市よりさらに車で30分ほど北上したところにある市です。〝雪を眺むる尾花沢〟と花笠音頭の唄にあるように、日本三雪の地で、雪とスイカで有名なところです。宿舎は江戸時代に銀の採掘で栄えた銀山・松尾芭蕉の尾花沢逗留・NHKドラマおしんのロケ地で知られている銀山温泉となります。

清流の両岸に立ち並ぶ木造の宿、山あいの静かなこの町は、お泊まりになった方にはきっと思い出に残る地となることでしょう。

両会場共、温泉旅館が宿舎となりますのでゆっくり温泉気分を味わっていただけるものと思っています。

次に国体開催を契機に本県ハンドボール界の成長ぶりを紹介いたします。

・両市を中心に小学校、中学校のハンドボールチームが誕生し、底辺の拡大ができた。
・有資格審判員、特に上級審判員を育成することができた。
・各校大会（日本リーグ・リハーサル大会・ブロック大会等）の開催により、市民のハンドボールに対する理解と関心が高まった。

以上が主なものですが、これもすべてにべにばな国体があったからこそと感謝しているところです。これらのことは私どもにとってかけがえのない大きな財産であり、宝です。

これからはこの財産を大切に守り、より一層の充実・発展させていくことが私どもの責任であると痛感しています。そして、国体終了後もこの熱と自信を継続し、全国各県の皆様方と一緒に肩を並べて、歩むことのできるよう頑張る覚悟です。

さて、秋の国体開催まで、残すところ2か月、各県においては、ブロック予選に向け、強化練習に励んでいらっしゃることと思います。ご健闘をお祈り申し上げます。

私どもは、半世紀に一度の国体「べにばな国体」の成功に向け、全力で頑張りますので、関係各位の絶大なるご支援ご協力を心からお願いを申し上げます。

本県協会関係者一同、皆様方のご来県を心からお持ち申しあげ、べにばな国体一色となっている山形県協会の近況報告といたします。

（筆責・会田恒雄）

県協会だより

21世紀の国際化に向けて

京都府ハンドボール協会

　京都府ハンドボール協会は昭和23年に発足し、45年の歳月が過ぎました。昭和32年、故木下彌三郎会長（丸玉観光㈱社長）就任以来昭和60年3月まで28年間にわたり、京都協会の刷新と躍進を目指す国際化に向けての事業発展に「木下商法」なる「木下哲学」のリーダーとして、よき理解者としてご支援を頂き京都協会の基礎づくりを構築されました。そのことが今日の京都協会の世界的視野と展望に立った次期の世代をになう組織体制づくりと普及発展の原動力になっているものと確信します。しかし、木下名誉会長は「京都国体総合優勝」の声を聞かずして他界されたことは、京都協会関係者として誠に遺憾な悲しい出来事でした。

　ご承知のように「ＫＹＯＴＯ」は国際観光都市として、世界の人たちが多く集まりますが、昭和38年以降、外国ハンドボールチームの国際試合の企画運営を通して協会役員の国際感覚への研修が始まりました。

「過去京都協力で主管した国際試合」

　韓国(3)、フランス(2)、中国(2)、西ドイツ(6)、東ドイツ(2)、(世界選手権第2位)、ユーゴスビア(1)（ミュンヘン・オリンピック優勝）合計16回を経験しました。

このような国際感覚がベースとなり、それぞれの組織の中で、メジャースポーツへの努力と平行してチーム数の増加が続いています。特に、社会人層の普及では近畿地区でもいち早く社会人リーグ戦を企画し、現在5部制を設け、年間2回戦総当りのリーグ戦を4月〜12月の期間で実施しております。

　これは中高校卒業者にハンドボール愛好の場を提供し、楽しさ、喜び、満足感を味わって欲しい、ハンドボールの魅力を失なわずに愛着を持ち続けたいその結果、京都府社会人ハンドボールリーグ連盟を設立し、本年で第17回目のリーグ戦を独自の運営で実施するまでに至ったのは「草の根ハンドボール」の普及成果であるといえます。

　また一方、京都国体を契機として、長期展望に立って競技力向上を目指していますが、成年男子、成年女子は国体終了後も「パワフル京都」を引き続き提唱した運動が京都府競技力向上対策事業の中で実施され、功を奏しているのは立派だと思います。全日本教職員選手権大会では男子2連勝、女子5連勝という輝やかしい記録を樹立、京都府競技力対策本部からもトップアスリートチームとして表彰されていることは21世紀に向けての大きな財産であり、中・高校生ハンドボール普及発展にもよい影響結果をもたらすことを期待しております。

　しかし、京都の小・中学生対象の普及強化が立ち遅れており、日本協会前普及部長伊藤和夫氏（愛知県ハンドボール協会副会長）の尽力で京都国体開催地の田辺町に小学生の火がともされ、本年で5回目を迎えました。本年度の参加は47都道府県中、男子21府県、女子16府県でレベルの高いと思われる関東ブロックの参加は今回もまた最も低調であり、さびしい限り、是非とも課題解決の糸口を模索して頂きジュニア育成にご支援願いたいと思います。

　京都は平成6年、平安建都1200年を迎えますが、ハード面での新しい京都づくりに、平成9年には全国高校総合体育大会の開催が決定し準備体制が進んでいます。今回㈶日本協会の組織メンバーに副会長小西博喜氏（京都工芸繊維大学教授）が普及委員長として担当されることになり、京都協会としてもこの小学生大会充実とさらにアジア地域のジュニア対策事業としての大会開催などアジアの世界に向けての道を切り拓いていく努力は課せられた責務であると考えております。

　そのためまず全府県参加の早期実現を目指し、○○カップ・杯の検討を企業感覚のきびしい状況の中で考えなければなりません。また、ＰＲ面ではテレビ放映企画も全国大会のタイトルには欠くことができません。大会運営側の認識を高める意味でも努力して行きたいものです。そのことがメジャースポーツへ認知されるイベントに発展するものと確信します。

　今後共よろしくご協力の程お願い申し上げます。

（京都協会理事長・吉田博一）

各部門での活動報告

埼玉県ハンドボール協会

1、はじめに
　本協会は、浜田卓二郎会長、高橋康造・遠藤健次・伊利仁副会長、上久保重次理事長を中心に活動しています。昭和20年代、30年代は数チームの活動にとどまっていましたが、42年の埼玉国体を機に指導者層も充実、埼玉県の発展とともにチーム数も激増しました。競技力も年々向上し、現在はそれぞれの部門で全国最高峰の水準を誇っています。

2、小学生（委員長・平野延行）
　加盟チーム数はわずかですが、平成3年より正式な県内大会を開催しています。

3、中体連（委員長・太利幸男）
　昭和40年代後半から、関東・全国の上位にも名を連ねるようになりました。全国大会の主な結果としては、昭和58年の蓮田中（斉藤良昭監督）の2位、61年浦和・大久保中（石井雄一監督）の3位、平成元年春日部・中野中（半村茂夫監督）の3位などがあります。（いずれも男子）。定期的な指導者講習・強化合宿が実を結んだ形ですが、現在は女子のレベルアップが課題となっています。（今年度登録チーム数、男子38、女子17）

4、高体連（委員長・田村和夫）
　昭和47年の深谷女（高橋邦男・井上友子監督）の全国優勝に見られるように、女子が優勝の時代もありましたが、50年代には男子も力をつけてきました。55年の川口工（上久保重次監督）、57年の川口北（田村和夫・土屋雅男監督）の全国2位に続き、59年・平成元年に浦和実（山田克彦監督）が全国優勝を果たしました。浦和実は63年に女子も優勝してお　、同一校で男女優勝経験を持つという史上初の快挙を遂げたのでした。平成3年夏、全国2位に甘んじた浦和学院（田中秀美・岩本明監督）も、4年春の選抜で優勝し、「埼玉の夢」を実現しました。現在、県内ではトーナメントのみの大会はなく、準決勝リーグ・決勝リーグ等で多くの試練を与えています。また、一年生大会の開催、大会ごとのプログラム作成で、選手に意欲を持たせています。（今年度登録チーム数、男子65、女子50）。

5、実業団（委員長・斉藤幸司）
　大崎電気の活躍はここでは省かせていただきます。平成3年から自衛隊体育学校（額賀洋二監督）が活動を始めました。

6、クラブ（委員長・細渕和慶）
　筑波大坂戸高のOBを中心とした46G会（高橋健夫監督）など高校のOB会を中心に十数チームが活動しています。国体予選等、年4回の大会を開催しています。

7、教職員チーム
　昭和63年に埼玉教員クラブ（男子、田中英俊主将）が18年ぶりの全国優勝を果たしました。なお、平成3年より、本協会の前副会長、高橋健夫が全日本教職員連盟会長に就任し、本県の中野利一が総務委員長を務めています。

8、技術・強化（委員長・田中秀美）
　技術講習会を開催し、強化に努めています。平成2、3年の国体では二年連続天皇杯3位に入賞しました。高校選抜チームは台湾遠征を三年続けて行ないました。

9、財務（委員長・結城昭夫）
　協力ボール・協力Tシャツの制度で、売り上げの一部を協力の収益にしています。なお、今年3月現在、27名の協賛会員がいます。

10、審判（委員長・小林一夫）
　上久保重次・北井晴次の指導のもと、研修に励んでいます。最近は、田村和夫・斉藤政寛・宮沢則夫・小林一夫・土屋雅男らが全国大会等にノミネートされています。

11、競技（委員長・斉藤政寛）
　普及（委員長・石井雄一）
　日本リーグ・学生リーグ等を積極的に誘致しています。また、平成3年の県民総合体育大会総合開会式後のアトラクションではハンドボールが採用され、650万県民にアピールしました。

12、結び
　平成16年の埼玉国体開催も内定し、関係者もはりきっています。皆さまのご指導をよろしくお願い申し上げます。

（記録委員長・安食邦明）

次代を担う人材の育成を

全日本学生ハンドボール連盟

中沢前理事長から福地新理事長へ

全日本学生ハンドボール連盟の理事長がかわりました。長年、学生界のために尽力戴いた中沢重夫氏が、日本ハンドボール協会専務理事就任に伴うものであります。

後任の理事長は6月20日に開催されました理事会にて福地賢介理事が選出され、総合役員会にて承認を得ました。前理事長の任期半ばのものであり、他の理事の改選はなく現行のスタッフで引き続き運営されます。新理事長を中心に今後も、学生界のみならず日本のハンドボール界の発展のために努力させて戴きますので、皆様の変わらぬご指導ご鞭撻の程よろしくお願い申し上げます。

新しく理事長に就任された福地氏は、当連盟の理事のみでなく長年、関東学連の理事長として学生ハンドボール界の活動に身を投じております。

福地新理事長挨拶

「突然といってよいような事態で、全日本学生ハンドボール連盟と言う大きな所帯を束ねる事になり、果たしてやって行けるだろうかという不安が先行したのは事実であります。というのは、前任者である中沢前理事長が、卓越した指導力と人を頼らず自身から率先して行う行動力で、今日の学連を築いたと言っても過言ではないからです。不安は不安でありますが前任者の良い点を踏襲して、自分なりのアレンジをベースにご関係諸氏の協力を賜り、学生界及び斯界の発展のために微力ながらお役に立てればと思いお引き受けさせて戴きました。

関東学生連盟でレベルアップのために何をしたら良いかと模索している時に、NHKに勤務されている慶大OBの杉山氏が『ハンドボールを行っている者が、ヨーロッパにおけるハンドボールの位置付けが何処にあるか、メジャー感を肌で感じる事がどれ程プラスになるか』その他諸々のアドバイスを受けて、一学生連盟としては初めての研修遠征が企画でき、更に全日本監督であった日体大OBの竹野氏の指導などがあって、当時の西ドイツに遠征ができました。

この経験が、私のハンドボール人生の中で大きなウエイトを占めております。しかし、今回の全日本学生連盟の理事長を命じられた今、もう一度、自分なりに学生連盟の日本ハンドボール協会での位置付けを見直し、新たな目標に向かって努力して行きたいと思っております。

ハンドボールのみでなく、他の競技でも学生界の地盤沈下は著しく、如何に活性化を図るかが当面の課題ですが、それのみでなく長期展望にたって、次代のハンドボール界を担う人材（選手のみでなく）の育成も大きな課題として積極的に取り組んで行きたいと思っております。

今後も関係皆様のご意見を積極的に賜り、斯界のために協力して行きたいと思っておりますので、是非、ご意見などお気軽にお聞かせ下さい。

全日本学生連盟理事長としての大任を果たすべく努力致す所存であり、皆様のご協力を重ねてお願い申し上げまして、紙面をお借り致し理事長就任の挨拶とさせて戴きます」

毎年、全日本学生連盟及び各地区学生連盟の有能な委員諸君が巣立っておりますが、卒業してしまうと、ハンドボール界に関与する機会が少なく、折角の学生連盟での委員経験が生かされておりませんので、是非、ご関係連盟、協会で関与の機会をおつくり戴きたいと思っております。

本年の学生界は、8月に行われる東西の学生選手権大会及び各地区学生連盟の秋季リーグに続き、11月の全日本学生選手権大会、12月にロシアで開催される世界学生選手権の参加が、主な行事であります。ご声援をお願い申し上げます。

関東学生春季リーグ戦について

総評

関東学生春季リーグは、4月17日の男子一部を皮切りに、5月17日の女子一部閉幕まで熱戦が展開されたが、男子一部は筑波大が7シーズン振りに優勝し、早大の5連覇を阻んだ。女子は日体大が昨秋に続き連覇し45回目の優勝を飾った(男子2部以下・女子2部は記録参照願)。

男子一部は、早大が全日本Aの荒木(GK)・岩本、同Bの中野などを擁して優勝候補の一番手にあげられ、これを筑波大、中大、日体大などが追う展開が予想された。しかし対抗と見られていた筑波大が、鎌田、藤本、益崎に新人の広政などが持ち味を発揮して、着実に勝ち星をあげ、中大も初戦を引き分けたが、その後は赤嶺を軸に全員ハンドボールを展開し着実に勝ち進んだ。これに反して早大は序盤で法大・日大に連敗したため、この2大学を早大が追う展開となった。

5日目を終わって、筑波大が全勝、中大が3勝1分1敗、早大が3勝2敗であったが、6日目に筑波大が中大に敗れた事で優勝の行方がわからなくなった。最終日は中大ー日体大に続いて最終戦が、早大ー筑波大のカードであった。これで中大が日体大に勝ち筑波大が早大に負けると中大の優勝、筑波大は早大に勝てば優勝、早大は中大が日体大に負け、筑波大に12点差で勝てば優勝と言う展開になった。しかし、中大が最終戦に敗れればBクラスに転落という日体大の気迫に圧倒されて敗れて脱落。最終戦に総てがかかったが、残り5分で10点差に追いつめられた筑波大が、早大の猛追を辛くもかわして逃げきり、敗れはしたものの得失点2点差で優勝し、混線リーグを制した。

昨シーズン入替戦に行った日大が高橋、井手、守随など4年生の頑張りで5位になったのが目立った。それに引き替え優勝戦線に絡むと思われた日体大の4位、国士大の7位は期待はずれであった。初戦に早大に勝った法大も尻つぼみであったが、エース永山の負傷欠場の順天大は元気なく最下位で、入替戦でなんとか一部を確保したにとどまった。

大混線と言ってよいリーグであったが、終わってみれば候補大学が優勝したが、レベルの低いリーグであったとも言える。

女子は、日体大・東女体・筑波大の昨秋の上位3大学と、大器と嘱望されている執印・佐藤を擁する日女体と好補給の続く東海大が追う展開が予想されたが、日女体は佐藤の故障、東海大は若さを露呈し、結局は日体大、東女体、筑波大の争いとなったが、日体大が追撃を振りきり最終戦の東女体戦をものにし昨秋に続き優勝した。竹吉以下、主力がごっそり抜けてチームのまとめ役が不在視された日体大であったが、ソウル五輪時の中国のエース可剣萍の入学で芯が出来、可が回りの選手を良く生かすと共に、自身でもここぞという時に確実に加点し安定したチーム力を見せた。東女体戦では可が負傷もあったり、東女体のマークがきつい事もあって動きを封じられ、一戦目は大敗したが、痛み止めを打って出場した可の活躍もあって、勝てば逆転優勝の東女体の勢いを止め2戦目をものにし何とか逃げきった。敗れた東女体は筑波大戦の1分が響き日体大と1勝1敗と星を分けたもの優勝を逸した。

筑波大は下級生が多く安定した力が発揮できず3位に終わった。

男子二部も混戦であったが、結局は国際武道大が優勝した。2位に東海大が抜け出し、入替戦に出たが、一部大学の国士大(対東海大)、順天大(対国武大)がそれぞれ残留した。

女子二部は東学大が順当に勝ったが、入替戦では千葉明徳短大に勝てず一部復帰はならなかった。

(関東学生ハンドボール連盟理事長・福地賢介)

成績

▼男子1部

法政大	23－18	早大
筑波大	30－17	日大
日体大	29－22	順大
中央大	25－25	国士館大
日大	19－18	早大
筑波大	22－17	法政大
中央大	29－24	順大
日体大	24－21	国士館大
中央大	20－17	日大
筑波大	29－20	国士館大
早大	27－22	順大
法政大	21－20	日体大
筑波大	28－21	順大
中央大	26－25	法政大
早大	26－21	国士館大
日体大	34－27	日大
日大	30－22	順大
国士館大	24－21	法政大
早大	29－22	中央大
筑波大	23－19	日体大
日大	22－21	国士館大
法政大	27－17	順大
早大	23－21	日体大
中央大	25－24	筑波大
日大	19－18	法政大
国士館大	30－16	順大

日体大 24－18 中央大
早大 29－19 筑波大

〔順位〕①筑波大②早稲田大③中央大④日本体育大⑤日本大⑥法政大⑦国士館大⑧順天堂大

▼**男子2部**

国武大 29－14 拓大
明星大 26－22 東学大
明大 30－19 青学大
東海大 25－18 慶応大
慶応大 24－17 東学大
東海大 31－25 明星大
国武大 34－19 青学大
明大 28－8 拓大
拓大 21－20 東学大
国武大 35－20 明星大
青学大 23－17 東海大
慶応大 20－16 明大
東海大 27－14 拓大
国武大 25－19 慶応大
東学大 25－22 青学大
明大 32－17 明星大
慶応大 29－17 拓大
東海大 21－16 国武大
明大 22－19 東学大
青学大 32－26 明星大
慶応大 28－21 青学大
拓大 21－19 明星大
明大 23－23 東海大
国武大 32－17 東学大
国武大 29－15 明大
東海大 21－18 東学大
青学大 23－17 拓大
明星大 26－24 慶応大

〔順位〕①国際武道大②東海大③明治大④慶応大⑤青山学院大⑥明星大⑦拓殖大⑧東京学芸大

▼**男子3部**

東経大 19－18 東大
横商大 21－11 専大
東工大 27－16 横国大
武工大 27－18 一橋大
武工大 24－17 専大
横商大 28－16 横国大
東経大 23－14 一橋大
東大 21－13 東工大
武工大 31－23 横国大
一橋大 23－17 東工大
東大 22－18 専大
横商大 14－13 東経大
東工大 15－11 東経大
専大 19－18 横国大
横商大 21－18 一橋大
武工大 29－24 東大
東大 25－25 一橋大
横商大 18－17 武工大
東経大 23－18 横国大
東工大 25－13 専大
横商大 22－16 東工大
東経大 25－20 武工大
一橋大 23－14 専大
東大 24－21 横国大
横国大 22－21 一橋大
東経大 22－16 専大
横商大 24－21 東大
武工大 27－16 東工大

〔順位〕①横浜商科大②武蔵工業大③東京経済大④東京大⑤東京工業大⑥一橋大⑦横浜国立大⑧専修大

▼**男子4部**

上智大 16－15 千葉大
大東大 27－25 東洋大
創価大 33－23 帝京大
茨城大 25－22 立教大
創価大 30－19 立教大
東洋大 25－22 帝京大
大東大 19－15 上智大
千葉大 27－24 茨城大
上智大 24－19 帝京大
千葉大 24－21 創価大
立教大 22－21 東洋大
大東大 30－20 茨城大
創価大 24－24 東洋大
立教大 25－24 立教大
大東大 23－23 千葉大
上智大 20－20 茨城大
大東大 29－21 立教大
上智大 23－19 創価大
千葉大 29－28 東洋大
茨城大 30－20 帝京大
大東大 34－25 帝京大
千葉大 29－21 立教大
東洋大 23－21 上智大
創価大 29－21 茨城大
千葉大 35－19 帝京大
立教大 19－18 上智大
大東大 29－24 創価大
茨城大 25－23 東洋大

〔順位〕①大東文化大②千葉大③創価大④上智大⑤茨城大⑥立教大⑦東洋大⑧帝京大

▼**男子5部**

産能大 24－20 成蹊大
神奈川大 37－28 防衛大
亜細亜大 30－16 横市大
東理大 38－26 東農大
神奈川大 23－20 成蹊大
防衛大 23－17 東農大
東理大 24－21 亜細亜大
横市大 26－20 産能大
亜細亜大 30－21 防衛大
産能大 18－14 東理大
神奈川大 41－25 東農大
横市大 32－22 成蹊大
東農大 24－24 亜細亜大
東理大 29－20 成蹊大
産能大 18－16 防衛大
神奈川大 25－22 横市大
東理大 30－20 防衛大
神奈川大 31－15 産能大
横市大 34－28 東農大
亜細亜大 27－18 成蹊大
防衛大 28－17 横市大
亜細亜大 24－13 産能大
東理大 25－22 神奈川大
東農大 30－14 成蹊大
東理大 34－15 横市大
東農大 30－24 産能大
亜細亜大 21－13 神奈川大
成蹊大 25－20 防衛大

〔順位〕①東京理科大②亜細亜大③神奈川大④横浜市立大⑤産能大⑥東京農業大⑦防衛大⑧成蹊大

▼**男子6部**

芝浦工大 15－11 東情大
独協大 20－20 日工大
明学大 24－21 千葉工大
埼玉大 24－19 都留大
芝浦工大 24－17 埼玉大
独協大 21－21 明学大
東情大 23－19 日工大
千葉工大 21－17 都留大
埼玉大 30－29 東情大

芝浦工大 18－16 明学大
日工大 25－19 千葉工大
独協大 29－18 都留大
独協大 30－22 東情大
芝工大 22－17 千葉工大
埼玉大 27－23 日工大
明学大 22－18 都留大
独協大 29－18 埼玉大
日工大 30－20 明学大
千葉工大 23－17 東情大
芝浦工大 23－17 都留大
芝浦工大 21－21 日工大
明学大 27－24 埼玉大
千葉工大 15－14 独協大
都留大 31－16 東情大
〔順位〕①独協大②芝浦工業大③千葉工業大④明治学院大、埼玉大⑥日本工業大⑦都留文科大⑧東京情報大

▼男子7部

●Aグループ

工芸大 25－14 工科大
群馬大 26－13 外語大
玉川大 16－10 駒沢大
武蔵大 27－13 関学大
武蔵大 25－18 工科大
駒沢大 12－0 外語大
玉川大 27－10 群馬大
工芸大 19－16 関学大
玉川大 26－19 工芸大
群馬大 28－18 関学大
工科大 21－12 外語大
武蔵大 16－15 駒沢大
駒沢大 21－11 関学大
工芸大 36－11 外語大
群馬大 26－17 工科大
玉川大 25－19 武蔵大
駒沢大 17－11 群馬大
工芸大 23－17 武蔵大
玉川大 42－14 外語大
工科大 29－17 関学大
玉川大 30－10 関学大
駒沢大 37－7 工科大
群馬大 17－15 工芸大
武蔵大 31－23 外語大
玉川大 36－21 工科大
関学大 28－22 外語大
群馬大 15－13 武蔵大
駒沢大 25－17 工芸大
〔順位〕①玉川大②駒沢大③群馬大④工芸大⑤武蔵大⑥工科大⑦関学大⑧外語大

●Bグループ

農工大 26－17 東電大
帝技大 24－18 都立大
文教大 22－20 帝技大
帝技大 25－18 東電大
杏林大 25－9 文教大
都立大 31－8 東電大
帝技大 23－22 西東大
都立大 29－17 農工大
杏林大 32－17 西東大
文教大 16－8 東電大
都立大 23－22 西東大
帝技大 20－19 農工大
都立大 17－16 杏林大
文教大 17－14 農工大
西東大 16－16 文教大
杏林大 25－14 帝技大
西東大 27－25 農工大
杏林大 24－13 農工大
東電大 19－18 西東大
都立大 28－21 文教大
杏林大 37－16 東電大
〔順位〕①杏林大②都立大③帝技大④文教大⑤西東大⑥農工大⑦東電大

▼女子1部

日体大 38－4 千明短
東女体大 27－12 東海大
筑波大 23－13 日女体大
東女体大 35－13 東海大
筑波大 18－18 日女体大
日体大 37－9 千明短
筑波大 35－9 千明短
日体大 29－16 東海大
東女体大 33－22 日女体大
筑波大 29－13 千明短
日体大 23－9 東海大
東女体大 28－11 日女体大
東海大 26－15 千明短
日体大 22－16 日女体大
東女体大 25－21 筑波大
東海大 26－9 千明短
日体大 28－19 日女体大
東女体大 21－21 筑波大
東海大 26－9 千明短
日体大 28－19 日女体大
東女体大 21－21 筑波大
東海大 21－14 日女体大
東女体大 40－5 千明短
日体大 23－22 筑波大
日女体大 18－15 東海大
東女体大 41－10 千明短
日体大 22－20 筑波大
日女体大 33－10 千明短
筑波大 21－11 東海大
東女体大 26－17 日体大
日女体大 29－11 千明短
筑波大 32－12 東海大
日体大 24－23 東女体大
〔順位〕①日本体育大②東京女子体育大③筑波大④日本女子体育大⑤東海大⑥千葉明徳短大

▼女子2部

東学大 23－13 千葉大
千葉大 12－0 横国大
東学大 12－0 横国大
大東大 27－8 都留大
都留大 26－13 昭和薬大
大東大 24－2 昭和薬大
玉川大 32－11 都留大
都留大 12－0 横国大
玉川大 12－0 横国大
東学大 23－11 大東大
茨城大 26－8 国士館大
大東大 21－17 国士館大
大東大 12－0 横国大
国士館大 12－0 横国大
玉川大 42－4 昭和薬大
東学大 41－0 昭和薬大
東学大 21－20 玉川大
茨城大 40－3 都留大
千葉大 39－15 都留大
茨城大 25－13 千葉大
千葉大 33－1 昭和薬大
茨城大 26－24 玉川大
東学大 27－7 国士館大
東学大 32－8 都留大
茨城大 20－12 大東大
茨城大 12－0 横国大
大東大 12－0 横国大
玉川大 27－17 国士館大
国士館大 [illegible]1－20 千葉大
玉川大 29－26 千葉大
都留大 17－16 国士館大
国士館大 26－7 昭和薬大
東学大 16－11 茨城大
大東大 16－5 玉川大
千葉大 16－16 大東大
茨城大 24－2 昭和薬大
〔順位〕①東京学芸大②茨城大③大東文化大④玉川大⑤千葉大⑥国士館大⑦都留文化大⑧昭和薬科大

▼入替戦

玉川大 20－18 都留大
杏林大 23－20 情報大
防衛大 20－13 芝浦工大
独協大 23－21 成蹊大
武工大 22－20 拓殖大
学芸大 22－18 横商大
国士館大 27－15 東海大
順大 21－20 国武大
亜細亜大 25－20 東洋大
東理大 34－22 帝京大
横国大 19－16 千葉大
大東大 29－14 専修大
千明短 18－17 東学大

※武蔵工大2部昇格
※大東文化大3部昇格
※東京理科大4部昇格
※亜細亜大4部昇格
※独協大5部昇格
※杏林大6部昇格
※玉川大6部昇格

平成4年度日本ハンドボール協会委員会名簿

平成４年度（財）日本ハンドボール協会の各委員会の
委員が次の通り決定し活動を開始しました。
※(専)は専門委員会、下線は委員長を示す

◈総務委員会　植村　繁、斉藤　博、近藤　金博、高畠　和江
◈会計委員会　斉藤　博、植村　繁、高野　澄雄、高畠　和江
◈財務委員会　山下　泉、植村　繁、木野　実、殿水　幸雄
◈企画委員会　木野　実、滝口　三郎、松本　勇、福地　賢介、宮崎　伸一、
竹内　武、福本　弘、大城　和彦、織田島　高生、山本　一
◈国際委員会　竹野　奉昭、杉山　茂、平岡　秀雄、西村　興八、木野　実、
田川　正明、山下　泉、井　薫、恩田　健一
◈広報委員会　恩田　健一、藤本　康正、浅香　茂、小林　晶子、堀　美和子、
白井　鉄久、
機関紙編集(専)　恩田　健一、藤本　康正、浅香　茂、小林　晶子、堀　美和子、
白井　鉄久
◈アジア大会委員会　山下　泉、平田　幸男、市原　則之
◈指導委員会　大西　武三、村松　誠、高橋　英次、平岡　秀雄、浅野　鉦世、
岡本　研二、江成　元伸、笹倉　清則、小山　浩、芝　重春、
松　喜美夫、秋永　昭治、池田　修、稲生　茂、
東北・北信越・東海・中国・四国各ブロック代表
指導者育成(専)　大西　武三、浅野　鉦世、村松　誠、芝　重春、
各ブロック指導委員、都道府県指導者担当者
競技(専)　北井　晴次　他
◈強化委員会　井　薫、津川　昭、藤原　侑、蒲生　晴明、紡方　嗣雄、
西山　逸成、鈴木　義男、片岡　賢司、高野　亮、樫塚　正一、
斎藤　幸司、福地　賢介、松井　幸嗣、早川　清孝
男子強化(専)　津川　昭、蒲生　晴明、斎藤　幸司、福地　賢介、高梁　精一、
松井　幸嗣、早川　清孝
女子強化(専)　藤原　侑、緒方　嗣雄、鈴木　義男、片岡　賢司、高野　亮、
樫塚　正一
◈審判委員会　大塚　文雄、藤田　八郎、岡本　克彰、狩野　幸介、佐分　正典、
加藤　雅之、斎藤　実、島田　房二、後藤　登、清水　宣雄、
浜田　浩和、小笠原　久郎、岡本　研二、西村　興八、江成　元伸、
花野　誠一、宮川　隆史、兼田　佳博
審判審査(専)　藤田　八郎、岡本　克彰、狩野　幸介、佐分　正典、加藤　雅之、
斎藤　実
ルール研究(専)　島田　房二、後藤　登、清水　宣雄、浜田　浩和、小笠原　久郎、
岡本　研二、西村　興八、江成　元伸、花野　誠一、宮川　隆史、
兼田　佳博
◈スポーツ医科学委員会　西山　逸成、阿部　徳之助、森田　俊介、竹内　正雄、市原　則之、
伊藤　喜久、濱脇　純一、藤井　健一、大島　一郎、武田　徹、
田中　守、田口　隆、松井　幸嗣、田中　俊行、柳　等、
板井　義浩

平成4年度
上級審判合格者名簿

● A 級(56名中41名合格)

伊藤　徳之(北海道)
松崎　雅芳(北海道)
尾形　俊賢(宮　城)
守屋　　賢(宮　城)
横山　　繁(青　森)
工藤　　茂(青　森)
関本　和之(青　森)
丸井　　誠(青　森)
橋本　春二(福　島)
長野　和樹(岩　手)
佐藤　睦郎(岩　手)
大沢　由和(岩　手)
工藤　鉄男(岩　手)
植村　　彰(千　葉)
細谷　安司(茨　城)
秀永　倫明(富　山)
山本　幹雄(富　山)
沢井　淳一(富　山)
森　　　聰(富　山)
坪井　雅典(愛　知)
中野　正彦(愛　知)
中森　雅彦(京　都)
大羽　隆夫(京　都)
酒井　　護(京　都)
国府　　功(京　都)
佐路　清隆(京　都)
小山　　勉(京　都)
久保　　博(広　島)
福岡　篤紀(広　島)
万代　和孝(広　島)
長谷　　実(広　島)
高　　俊文(広　島)
早田　博之(鳥　取)
進木　丈実(鳥　取)
中村　利博(宮　崎)
石原口秀樹(宮　崎)
松村　房夫(宮　崎)
渡辺　正徳(宮　崎)
田中　一則(熊　本)
建岡　欣也(熊　本)
宮瀬　知周(熊　本)

男子ナショナル第1回極東大会派遣選手団

役職	氏名	生年月日	所属
監督	蒲生晴明	1954. 4. 5	大同特殊鋼
コーチ	田口　隆	1961. 7.23	本田技研工業
コーチ	関　健三	1955. 1.24	三陽商会
ドクター	山崎哲也	1961. 7.20	横浜港湾病院
レフェリー	小笠原久郎	1962.10.12	国際審判員

選手		氏名	生年月日	身長	体重	所属
G.K	1	橋本行弘	1965. 9.17	185cm	80kg	本田技研工業
	12	林　康一	1967. 3. 3	181	75	大同特殊鋼
	16	河野裕光	1969. 6.16	186	84	湧永製薬
C.P	2	甲斐章義	1966. 4.22	183	71	大崎電気工業
	3	魚住和彦	1966.10.24	188	78	大崎電気工業
	4	富本栄次	1971.10.17	182	75	日本体育大学
	5	梅基幸一	1967. 2.26	182	72	本田技研工業
	6	末岡政広	1967. 9. 1	176	74	大同特殊鋼
	7	田中　茂	1967. 9. 2	182	76	三陽商会
	8	平松茂雄	1968.10.27	181	67	本田技研工業
	10	小沢勝利	1971. 6. 2	178	75	日本体育大学
	11	渡辺　浩	1967.10.20	182	72	三陽商会
	13	藤井孝志	1969. 7.27	189	89	大同特殊鋼
	14	林　昌英	1968. 7.31	181	65	日新製鋼
	15	源内利之	1968.10.12	182	73	日新製鋼
	19	中山　剛	1969. 7. 4	191	75	湧永製薬

女子ナショナル第1回極東大会派遣選手団

役職	氏名	生年月日	所属
団長	渡邊佳英		日本協会副会長
監督	緒方嗣雄	1946.11.19	大和銀行
コーチ	伊藤宏幸	1951.12. 1	日立製作所
コーチ	穂積豊彦	1952. 3.26	北国銀行
レフェリー	浜田浩和	1962. 2. 4	国際審判員

選手		氏名	生年月日	身長	体重	所属
G.K	1	川島ゆう子	1968.10.21	173cm	65kg	オムロン
	12	村山みどり	1969. 1. 9	177	69	シャトレーゼ
	16	上田治美	1972.12.27	171	63	大和銀行
C.P	2	松田史佳	1968. 5.14	162	55	北国銀行
	3	山岸理津子	1968.11. 5	170	61	シャトレーゼ
	4	石村智江	1969. 7.31	168	67	オムロン
	5	飯塚景子	1969. 1.18	167	68	日立栃木
	6	比嘉晴美	1969. 9.12	164	53	オムロン
	7	貴田直子	1969.10.18	174	64	日立栃木
	8	小俣訓子	1969.11.15	157	55	シャトレーゼ
	9	西　朋子	1970. 1.19	168	65	ブラザー工業
	10	谷本　泉	1970. 6. 5	162	59	北国銀行
	11	松下由紀子	1970. 8.27	161	54	北国銀行
	13	西村聖子	1970.10.14	173	62	武庫川女子大
	14	西口貴子	1971. 6.28	173	60	大和銀行
	15	木口ゆかり	1972. 4. 9	168	59	大和銀行

平成4年度 上級審判合格者名簿

● B級(51名中28名合格)

小野寺明彦(北海道)
三宮　哲也(北海道)
川村　徹治(北海道)
古関　直樹(秋　田)
横瀬　徳雄(山　形)
佐藤　　健(宮　城)
富田　　拓(千　葉)
菊田　政行(茨　城)
安田　博之(茨　城)
岸　　裕行(栃　木)
長野　　誠(栃　木)
山下　勝俊(栃　木)
河先　　修(栃　木)
鈴木　和宏(神奈川)
木村　　奨(神奈川)
作田　雅弘(神奈川)
松田　憲蔵(富　山)
宮窪　徳近(富　山)
松岡　良朔(福　井)
竹野　誠司(福　井)
三谷　雅人(三　重)
丸山　竜司(三　重)
西田　　充(京　都)
佐久間良幸(京　都)
米田　　健(広　島)
渡辺　眞一(広　島)
薬師寺徳之(大　分)
山地　　悟(大　分)

男子ジュニアアジア選手権大会派遣選手団

役職	氏名	生年月日	所属
監督	高橋精一	1949. 6. 2	桃山学院高等学校
コーチ	松井幸嗣	1957. 7. 6	日本体育大学
コーチ	奥田新治	1959. 6.11	湧永製薬
ドクター	河野卓也		横浜港湾病院
レフェリー			
レフェリー			

選手		氏名	生年月日	身長	体重	所属
G.K	1	四方　篤	1972. 5.12	191cm	90kg	大阪体育大学
	12	日原一幸	1973. 7.20	181	70	名城大学
	16	坪根敏宏	1973. 6. 4	188	80	福岡大学
C.P	2	高畠　毅	1972. 8. 4	184	74	日本体育大学
	3	杉山祐一	1972. 9.21	191	93	湧永製薬
	4	市原剛次	1972.12.21	188	72	早稲田大学
	5	中谷友和	1973. 6. 8	181	76	大同特殊鋼
	6	田島寿人	1973. 4.26	187	70	日本体育大学
	7	辻　昇一	1973. 5.10	183	68	日本体育大学
	8	広政宜孝	1973. 7. 6	178	65	筑波大学
	9	茅場　清	1973. 7. 8	185	78	日本体育大学
	10	藤井周平	1973.11. 2	176	66	日本体育大学
	11	熊野秀樹	1973. 8.23	176	64	桃山学院大学
	13	笹浪重俊	1973.12.11	178	70	日本体育大学
	14	山口武仁	1974. 1. 4	172	65	法政大学
	15	森山　透	1974. 8. 6	171	61	熊本市立商高

女子ジュニアアジア選手権大会派遣選手団

役職	氏名	所属
団長	山下　泉	日本協会常務理事
監督	高野　亮	東京女子体育大学
コーチ	田中俊行	ブラザー工業
トレーナー	永松みどり	スポーツプログラムス
レフェリー		
レフェリー		

選手		氏名	生年月日	身長	体重	所属
G.K	1	鷲見美応	1973. 9.14	168cm	56kg	ジャスコ
	12	友貞由美	1974. 6.15	171	68	大谷
C.P	2	荒川裕子	1973. 4.25	172	68	大和銀行
	3	上出恵美子	1973. 5.17	168	55	北国銀行
	4	松本恵美	1973. 7. 6	173	73	日立栃木
	5	石垣玲子	1973. 8.19	167	59	東京女子体大
	6	稲次　彩	1973. 9. 8	164	56	筑波大学
	7	森下慶子	1973. 9. 9	161	60	福岡大学
	8	小林直美	1973. 9.12	162	52	福岡大学
	9	今野美穂	1973. 9.25	168	58	東海大学
	10	廣瀬喜代香	1973.10.19	164	65	大崎電気
	11	芦ヶ谷登美子	1973.12.29	165	59	シャトレーゼ
	13	伊佐野美保	1974. 1. 6	164	56	日立栃木
	14	神津奈美	1974. 1.29	170	62	東京女子体大
	15	山川由加	1974. 5.29	167	57	名古屋短大附
	17	硲　美樹	1974.11.20	175	67	洛北

関口昇氏を偲ぶ

東海学連の始祖、名古屋大ＯＢの関口昇氏が去る6月10日午後9時34分、58才の若さで逝った。

思い起こせば昭和30年私が入部した時、当時学連の理事長でも委員長でもあり、また名大チームの監督・コーチそしてワンマンともいえる選手でもあった関口（当時近藤）氏が十手を使ってボールに空気を入れ、ラインを引いて私たちを迎えてくれた。この姿は退部するまで続けられた。

その背中を見て育った私は上級生になった時率先してライン引きをし、愛知実連の理事長をしていた時も理事長の最初の仕事はライン引きだとしてそれを伝えてきた。

通称『トンチャン』と呼んで先・後輩から親しまれ、名大ハンドボールクラブの支柱となって部史の作成、民間交流ではわが国初の台湾・韓国遠征と常に我々と歩いてきた。また最近は旧制五中・瑞陵高のハンドボール部史も完成された。

6月13日の告別式には大分、東京、長野などから多数お別れに集ったが、なかでも恩師栗脇嶷氏（元愛知県協会理事長）、後輩太田耕治氏（現愛知県協会会長）の弔辞に参列者すべてが涙した。

謹んで御冥福をお祈りします。

合掌

なおご遺族は、岐阜県可児市若葉台4－66（〒509－02）

夫人　関口洋子様

（愛知県実業団ハンドボール連盟会長　田中滋章）

協会だより

7月度常務理事会　7／11　於、日本協会

出席　中沢専務理事他8名

1、各委員会規程　承認の件

各委員長より提出された原案を検討、条文の統一を図るため文章の整理を7月20までに完了させることを条件に承認。7月11より施行

2、アジアジュニア選手権大会及び極東大会派遣メンバー承認の件

別項の通り決定、但し今後変更の必要が発生した場合は常務理事会開催の時間的余裕がないため強化委員長に一任することとした。

3、海外派遣チーム医薬品代支給に関する件

従来はドクターの負担になっていたが今回から1遠征10万円を限度に日本協会で負担することに決定。

4、各委員会報告

(1)クラブ運営委員会　来年度クラブ選手権大会会場は宮城県を予定

(2)強化委員会

①　男子ナショナルチームコーチに関健三氏が決定

②　男子ナショナルチーム自衛隊富士学校に体験入隊　10月16～19

③　高校指導者2名をナショナルチームスタッフとして委嘱した。

男子　浦和学院高　岩本　明

女子　四天王寺高　繁田　順子

④　バルセロナオリンピック見学　井、蒲生、緒方、田口（蒲生、緒方はＴＶ解説を依頼されている）

(3)審判委員会　ＩＨＦ審判講習会を日本で開催するべく計画中

(4)普及委員会　小学生大会で使用するボール及び松やにの使用について…今年度末までに指導、普及委員会が協力して検討する。

(5)広報委員会　ナショナルチームパンフレット作成状況報告

5、職員就業規則改定

休暇日数3日増とすることを承認

6、その他

(1)外国人の登録について…専門委員会を設置し検討に着手する。

(2)国体競技場設置基準について…審判委員会に於いて検討、明文化する

(3)臨時棚卸しについて…貯蔵品管理（主として審判用品）をより明確にするために9月31に臨時棚卸しを実施する。

以上

9月度予定

国際大会

極東男女トーナメント大会

9月5～12　中国上海会議

常務理事会　9月12

asics®
ATHLETIC SHOES

Barcelona'92

ゴールに狙いをつけた傾斜角。

踏み付け部のエッジ
につけた傾斜が、
倒れ込みシュートを
打ちやすくしました

コートは狭く、ゴールポストも小さいハンドボール。厚い防御の壁を突き破ってシュートを決めるのは、簡単なことではありません。わずかな間隙をぬって決める倒れ込みシュートこそ、まさにハンドボールの醍醐味です。スカイハンド®ジャパンα-Sは、アウターソール踏みつけ部のエッジに傾斜をつけることにより、倒れ込みシュートを打ちやすくしました。

インドアのために生まれたスパイラルソールが、
すばやい攻撃を支えます。

ハンドボールに要求されるものは、なによりもまずスピード。インドア専用に開発されたラバー製のスパイラルソールがすばやい動きにあわせて威力を発揮します。動きやすく、滑りにくい。しかも、踏み付け部には溝を配し、屈曲性をアップ。攻撃に、防御に、鍛えぬかれたフットワークに磨きがかかります。

品名 **スカイハンド®ジャパンα-S**
品番 **THH711** メーカー希望小売価格 **¥16,000**(消費税抜き)
αGEL
カラー/●ホワイト×Wレッド・マリンブルー●ホワイト×Wマリンブルー・レッド
サイズ/22.5〜29.0cm

アシックスは
オリンピックキャンペーンの
オフィシャルスポンサーです。

株式会社アシックス
●商品についてのお問い合わせは株式会社アシックス消費者相談室までどうぞ。
●Ⓡは㈱アシックスの登録商標です。
〒650 神戸市中央区港島中町7丁目1番1 TEL(078)303-2233(専用)・(078)303-3333(大代表)
〒130 東京都墨田区錦糸4丁目10番11号 TEL(03)3624-1814(専用)・(03)3624-2221(大代表)

(財)日本ハンドボール協会編
『ハンドボール』
第三二三号
昭和四十年六月七日 平成四年八月二十六日 印刷
第三種郵便物認可 平成四年九月一日 発行
東京都渋谷区神南一－一－一
電話 代表 (418) 二二三六一
振替 東京 六－五八三四八番
編集兼発行人 中澤重夫
定価三百五拾円
(年間購読料 三千三百円)